

OHKUMA

平板スレート専用 屋根改修 し～る工法 屋根材

シーガード

 **C/guard**
Made in japan

施工説明書

24,01 版

●シーガードムービー施工研修の受講方法

2021年4月現在

株式会社オークマ C/guard 事業部

①シーガード公式ホームページにアクセス

◎ウェブ検索でアクセス

シーガード

検索

④シーガードカバー工法

yanecover.net

http://yanecover.net をクリック

既存の屋根にビスなどで穴をあけないシーガード工法は、施工中の雨もりの心配もなく、施工後は美しくかつ優れた性能を安心安全と共にご提供いたします。

◎QRコードでアクセス



シーガード屋根カバー

②シーガード公式ホームページを下にスクロールする

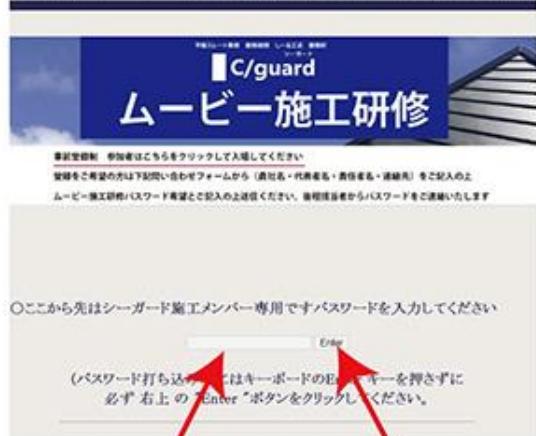


クリック

③ムービー施工研修をクリック



④パスワードを入力し、画面上の Enter を押す



パスワードを入力

(オークマ担当者に確認してください)

Enter を押す

(キーボードの Enter でなく画面のここを押してください)

シーガード
ムービー施工研修
のページにアクセス完了

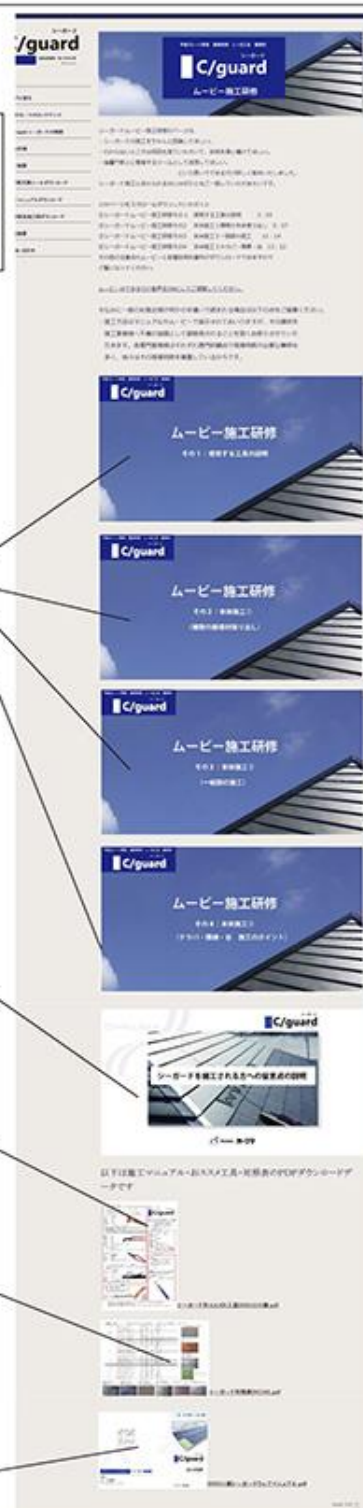
ムービー施工研修
各部位ごとの説明

シーガード施工上の
注意事項

おススメ工具の
購入方法

シーガード
各平板スレート
対照表

シーガード
施工マニュアル
ダウンロード





シーガード C/guard Made in japan 施工説明書 (24,01版)

目次

施工の際の注意事項	2ページ
施工前のチェックリスト	3ページ
主要部材表	4ページ
使用する工具	5ページ
シーガード本体施工前に必要な準備施工	6ページ

基本的な施工方法	8ページ
----------	------

施工大まかな流れ① 棟・水平壁の張り出し (1部スガリの施工収録)	13ページ
施工大まかな流れ② 隅棟(通し棟)取り合い施工	15ページ
施工大まかな流れ③ 隅棟(差棟)取り合い施工	17ページ
施工大まかな流れ④ 隅棟(隅棟役物)取り合い施工	18ページ
施工大まかな流れ⑤ 谷部・ケラバ部・スガリ部・ 棟際の接着剤の塗布方法と 棟違いの本体施工の注意点	19ページ
施工大まかな流れ⑥ 谷の施工	20ページ
施工大まかな流れ⑦ ケラバ・流れ壁部の施工	23ページ
施工大まかな流れ⑧ 軒先の施工	27ページ
施工大まかな流れ⑨ 谷や隅棟で端物が入る 場合の施工	27ページ
施工大まかな流れ⑩ シーガード施工の進め方の参考例	28ページ

その他納まり① 天窗上のシーガード施工例	29ページ
その他納まり② 軒先だけ差棟の箇所の施工	30ページ
その他納まり③ 既存雪止めとの取り合い施工	30ページ
その他納まり④ 太陽光モジュール廻りを施工する 時の注意点	31ページ
その他納まり⑤ シーガードを部分張りする	33ページ

アーバニーをはじめとしたスリットカット タイプの屋根材への施工の注意点	35ページ
施工面積を延ばす参考例	36ページ
働き長さ(足)が182mmでない場合	36ページ
たまに聴く施工上の不具合	37ページ
表面に付着した接着剤の除去方法	37ページ
タッチアップ材はできるだけ小面積で タッチアップしてください	37ページ

シーガードの施工前に以下の注意点を必ずお読みいただき厳守してください。



この表示の欄は「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。

- 1: 施工に際しては、保護帽・安全带・定められた作業服など安全作業の心得を最低限遵守してください。
また、現場の作業環境に合わせた安全対策を徹底してください。
- 2: 屋根からの墜落を防止するために足場と防護ネットを設置するなどの対策を施してください。
- 3: 屋根面から屋根材やその他関連部材や工具を落下させないようにしてください。
- 4: 雨天・強風・降雪・雷鳴及び霜や屋根面がまだ濡れている場合は施工をしないでください。
落下や屋根上の部材の飛散・落雷事故などの恐れがあります。
- 5: 屋根材の端部および切断面の取り扱いには十分注意してください。裂傷を負う恐れがあります。



この表示の欄は「傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

- 1: 建築地に適合した建築基準法やその他の法令を順守した仕様で施工してください。
- 2: 毎日の作業終了後は屋根面の清掃を行い、屋根上に部材や工具を残さないように作業を終了させてください。
作業時間外の天候悪化などにより、屋根上の部材が飛散する恐れがあります。
- 3: 屋根面に傷がついてしまった場合速やかにタッチアップし処理を行ってください。錆が発生する恐れがあります。
- 4: シーリング材などの現地調達部材はご使用方法を確認の上で正しく使用してください。
- 5: シーガードは3.0寸勾配未満の屋根面には施工しないでください。
また9°以上の屋根面には施工しないでください。
- 6: 屋根材の切断は丸鋸やチップソー・サンダーなどの高速回転型の切断機の使用はしないでください。
切断面の腐食の促進や切粉による錆の発生の恐れがあります。
- 7: 製品の保管は、地面に直接置かず、シートを敷き、台木に乗せ防水シートをかけてください。
- 8: 製品の搬出入の際は、製品に直接ワイヤー・ロープなどかけないでください。変形・キズの原因になります。
また屋根材を地面や屋根面で引きずったりすると擦り傷が発生して美観を損ねますので、取扱いには十分に注意して施工してください。
- 7: 専用接着剤以外の接着剤を使用しないでください。保持力が十分でない可能性があります。

以下の際に施工すると施工後の品質が設計性能よりも劣化する場合があるため施工は避けてください。

- 1: 雨天・雪または屋根面が濡れている状態: 専用接着剤の接着力が不十分になる可能性があります。
- 2: 外気温摂氏5℃以下の状態: 専用接着剤の接着力が不十分になる可能性があります。
- 3: 既存屋根に原因不明の雨漏りが発生している場合: 既存下地防水紙が不具合を起こしている場合が想定されます。この場合はシーガード以外の工法をお勧めいたします。
- 4: 既存平板スレートまたは周辺板金が著しく破損している場合: 耐風圧の保持力が十分でない可能性があります。
- 5: シーガード施工上スレート3枚(1枚の半分、1枚、1枚の半分)の上にシーガード1枚を施工するため、連続してスレート3枚が半分以上欠損していた場合は施工を控えるようしてください。

シーガードの施工前チェックリスト

1：既存平板スレートが雨漏りをしているまたは過去に雨漏りをしたことがある

既存下地防水紙が傷んでいる場合が想定されます。施工前に原因を究明し、場合によってはほかの工法をお勧めします。

☐

2：既存板金の釘が板金から浮いている。

既存板金の下地木材は腐食している場合があります。この場合は板金の交換が別途必要になります。

☐

3：既存平板スレートが著しく損傷している。

シーガードの耐風性能の保持力が十分にならない可能性があります。場合寄ってはほか工法をお勧めいたします。

☐

4：既存平板スレートの上下勘合部から錆が流れ出ている。

既存平板スレートの留め付け釘がさびている可能性があります。場合よってはほか工法をお勧めいたします。

☐

5：過去の塗り替えで上下勘合部が塗膜でふさがっている。

別途工事で目地切（ふさがった塗膜を除去する工事を必要とします。）

☐

6：垂直積雪量が100cm以上の地域である

（国土交通省告示第474号 特定畜舎等建築物の構造方法に関する安全上必要な技術的基準を定める等の件
第3の2項の一に係る 別表の数値を基準とする）

基本的に施工不可です。ほかの工法にて施工してください。

☐

7：築年数が40年以上である。

下地防水紙が寿命の可能性があり。ほかの工法にて施工してください。

☐

8：既存平板スレートの流れ方向の働き寸法が均等に180mm～185mm以内でない。 もしくは全体的に施工不良で葺き縮めまたは葺きのぼしている。

基本的に施工不可です。ほかの工法にて施工してください。

☐

9：既存平板スレートの施工要領を著しく逸脱している。

施工不良の屋根には施工できない場合がありますので、十分な確認が必要です。

☐

10：海岸線1キロ以内もしくは温泉地・獣もしくは鶏舎・半導体工場など 鋼板を劣化させる環境である。

屋根材の耐久性能が十分に発揮できない場合があります。十分な確認が必要です。

☐

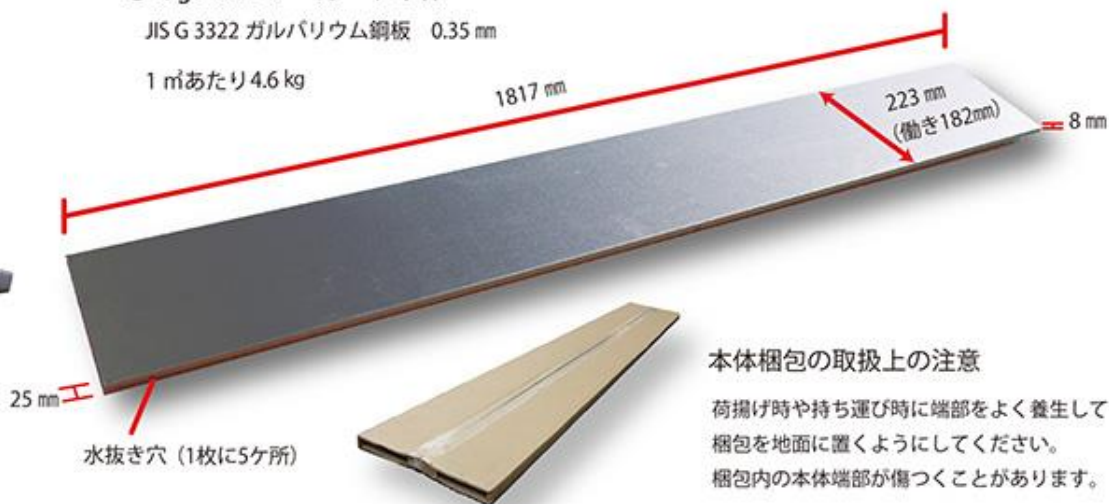
C/guard

シーガード

主要部材

- C/guard: シーガード本体
JIS G 3322 ガルバリウム鋼板 0.35 mm
1 mあたり4.6 kg

10枚で1坪 (3.3枚/m²)
1ケース10枚入り

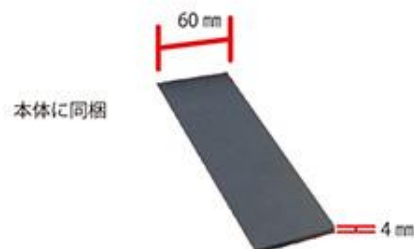


本体梱包の取扱上の注意

荷揚げ時や持ち運び時に端部をよく養生して
梱包を地面に置くようにしてください。
梱包内の本体端部が傷つくことがあります。

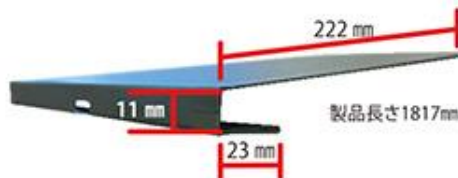
●ウォーターチャンネル (本体同梱)

シーガード本体のジョイントの隙間から既存屋根材が
みえないように隠す部材です。



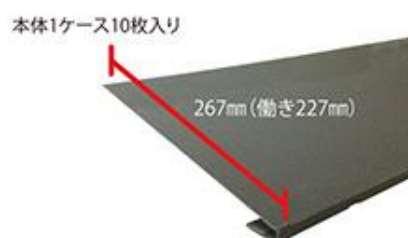
●シーガード軒部材 1ケース10枚入り

軒先の納まりに使用いたします



●C/guard: シーガード本体 (227)

既存平板スレートは働きが227mmの場合に使用する
本体です。(色はブラックのみ、軒部材はありません)



●シーガード専用接着剤

シーガード本体と既存平板スレートを接着させる専用接着剤です

シーグリュウ

- C/glue ブラック・ブラウン・グリーン・オリーブ用
カートリッジ式
333ml
1ケース10本入



シーシール アルファ

- C/seal α アイスシルバー色用
カートリッジ式
333ml
1ケース10本入



直径5mmで塗布した際の
目付量

1 mあたり 0.438 本

1 本あたり 2.28 m²

1 本あたり 7.533 枚

差棟にも使用する際には
差棟23本でC/glue 1本

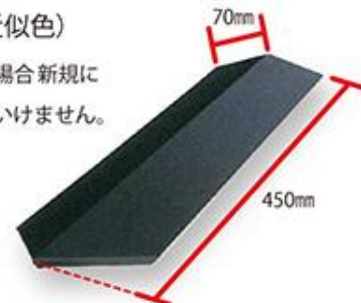
専用接着剤使用時の
注意事項

摂氏5℃以上でご使用
ください

塗布時に高さ5mmを
保つように塗布して
ください

●差棟 (本体近似色)

既存屋根が差棟の場合新規に
取り付けなければいけません。



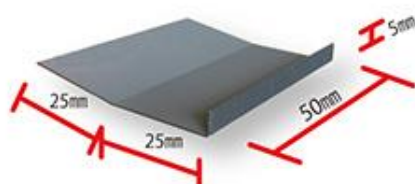
●シーガード谷カバー

谷部を納める部材
(折下げて納める場合には不要)
留付けはジャックポイント4×13
*本体色とは若干色が異なります。



●Mキャッチャー

急勾配時に上下勘合部が空きすぎていて、本体施工後本体が落ちてきてしまう場合や、ミルフィーユ状に
層間剥離している場合などや、その他の理由で上下勘合が入りにくい場合、これを本体施工前にコロニアル
の左右勘合部にあらかじめ入れてから本体を施工すると、問題が解決する場合があります。推奨部材です。



既存コロニアルの左右勘合部に本体施工前に設置します。

使用する工具(推奨工具)

つかみ：

谷や必要に応じてケラバ・壁際を
曲げ加工する工具

板金鉗：

シーガード本体をカットする工具

縁切り：

塗装でコロニアルの上下勘合が塗膜で
埋まっているときに取り除く工具

カッター：

主に梱包の開梱や接着剤の
ノズルのカットに使用

スケール：
寸法を測る

シーリングガン：

333 mmカートリッジ用接着剤の塗布に使う

鼻曲げ：

谷部の曲げ加工に便利な工具です。
300 mm～455 mmの長さのものを
使います。

勾配定規：

隅棟・谷のけがきを使う工具

300 mmバール：

コロニアルの上下勘合が
硬いときに使用する

赤鉛筆：

けがきにつかう

ハンマー：

シーガード本体を押し込むときに使用。推奨はホームセンタ
ーやネット通販などで販売されている、
の重さのゴムハンマーです。通常の頭が鋼製のハンマーで
拍子木で押し込んでいく方法でも構いません。
(0.5ポンドは226.8kgです。)

ハンマー
(頭鋼製)

拍子木

ドライバーとターボシアー：

長手切の時に使用。ドライバーの先に
装着する。その他(直刃のハサミや
押切カッターなど)の工具でも可

手箒：

既存平板スレート上下勘合から出てくる、砂ほこりなどを
除去するために携行してください。



シーガード本体施工前に必要な準備施工

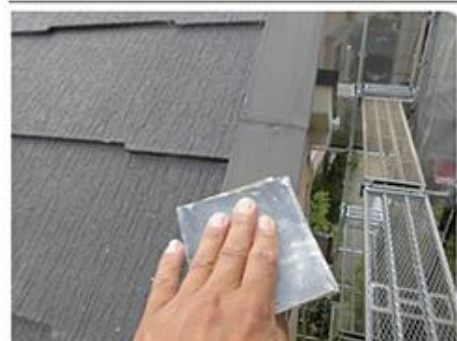


足場仮設終了後、
高圧洗浄などで既存スレート屋根を
洗浄（本体工事外）

* 高圧洗浄はできるだけ水上から、水下にノズルを向けて
洗浄してください。右の写真のように水下からノズルを
向けると既存平板スレートが破損する種類があります。

* コロニアル上下動合部に、縁切りが必要な場合には屋根
洗浄前に行ってください。

* タスペーサーなど屋根塗装時の縁切部材などが施工されている
場合にはできるだけ撤去されることをお勧めいたします。



既存板金部分をケレン後に錆止めを塗り近似色で塗装する。（本体工事外）

●カラーバリエーション



ブラック



ブラウン



オリーブ

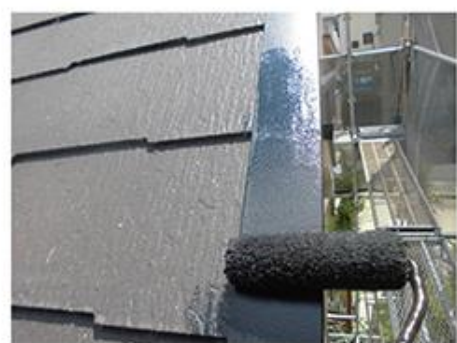


グリーン



アイスシルバー

板金部分の塗装色は、シーガード本体カットサンプルを日照下に出して近似色を検討するように
* してください。



雪止め塗布状況



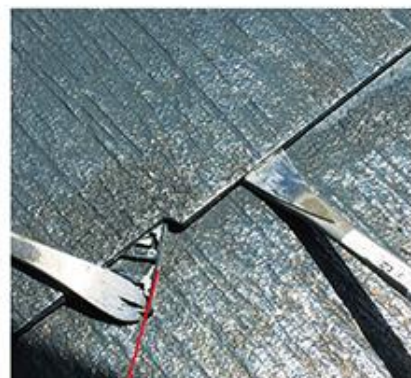
板金部（棟・隅棟・谷・ケラバ・雪止め）塗布状況

●タスペーサーなどは撤去します。

既存屋根が以前に塗装改修をしていて、その際にタスペーサーという上下勘合の縁切り(塗膜で上下勘合がふさがらないように設置されている部材)という部材が設置されている場合は、撤去が必要です。撤去は右写真のようにパールで簡単に撤去が可能です。



タスペーサー



パールで簡単に取れます。

●縁切りされていない箇所は縁切り処理をしてください。

既存屋根が以前に塗装改修をしていて、その際に上下勘合の縁切りがされずに塗膜でふさがっている状態(縁切り不良という)の場合には、縁切り工具で上下勘合をふさいでいる塗膜を除去して下さい。



縁切り不良、上下勘合をふさいでいる塗膜

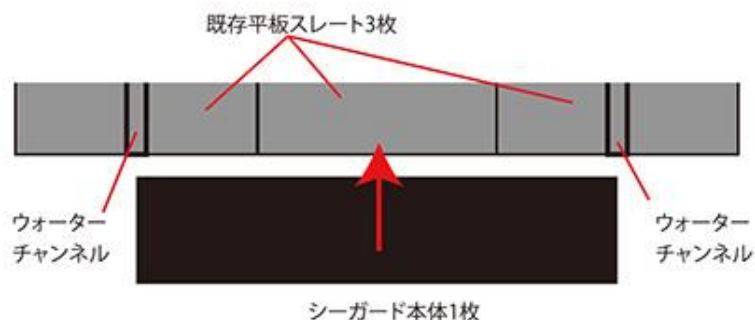


縁切り工具で上下勘合をふさいでいる塗膜を撤去する。

●既存屋根材の傷み具合が施工可能か判断する。

シーガードは右図のように平板スレート3枚(1枚の半分、1枚、1枚の半分)の上にシーガード1枚を施工するため、連続して平板スレート3枚が半分以上欠損していた場合は施工を控えるようにしてください。

*数か所のみ該当の場合は、接着剤の増し打ちや割れた破片を接着剤で修復後施工してください。



↑1枚が半分以上割れてしまっている。

*数か所のみ該当の場合は、接着剤の増し打ちや割れた破片を接着剤で修復後施工してください。



↑基材が傷みすぎている。

*シーガードを施工しないでください



↑割れが目立つが、欠損条件が施工基準に満たされている。
*欠損箇所は、接着剤の増し打ちで施工してください。



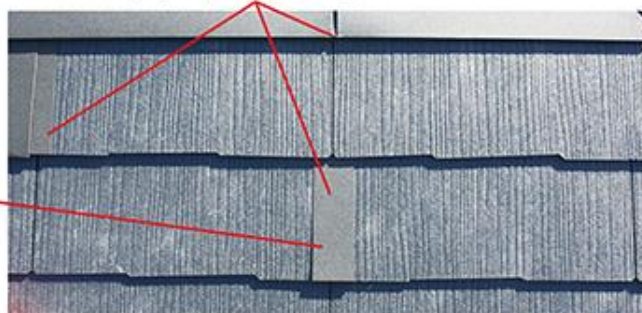
↑割れが目立つが、欠損条件が施工基準に満たされている。
*ヘアークラックの箇所は接着剤で補修して施工してください。

屋根洗浄後、以下の①～③の点を常に留意しながら施工にあたってください。

①正しい位置の確認

ウォーターチャンネルの位置は必ず
既存平板スレート本体の真ん中になる
ように設置してください。

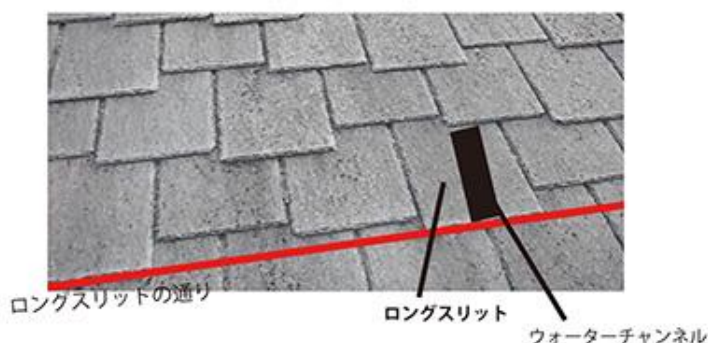
ウォーターチャンネル



- フルベスト 24 をはじめとした 1/3 ずらしのタイプ
このタイプは下段の本体目地にウォーターチャンネルを設置してください。



- アーパニー等のスリットが異なる長さの場合は一番長いスリットの箇所に
ウォーターチャンネルを設置してください。



②正しい塗布形状の確認

上下勘合から 30 mm 程度離す

下段のコロニアルの目地を
目安に左側に円弧 3 つ

下段のコロニアルの目地を
目安に右側に円弧 3 つ

ウォーターチャンネル横
に縦状に必ず塗布

ウォーターチャンネル横
に縦状に必ず塗布



下段のコロニアルの目地

③正しい塗布方法の確認

接着剤は必ず専用接着剤を使用してください。

専用接着剤の塗布時の高さ

専用接着剤のノズルのカット

3本目のリブ

カットするリブ
(2本目のリブ)

先端から 1 本目のリブ



専用接着剤のノズルの先端



*ノズルはまっすぐ切り落とします(斜めに切らない)

ノズルの開口はカッターでしっかり開け
てください。ハサミなどでカットして
ノズル先端がつぶれないようにしてください



ノズルをちょっと浮かす。
(シーガードとしっかり接着する)

5 mm



ノズルで接着剤を
押さえながら出す。

(高さが不十分のためシーガード
としっかり接着できない)



5 mm 未満



既存の平板スレートに下図の遵守事項を守って、弧を描くように専用接着剤を塗布していきます。

ウォーターチャンネル部は1本まっすぐに塗布します。クラック箇所も専用接着剤を施工してください！

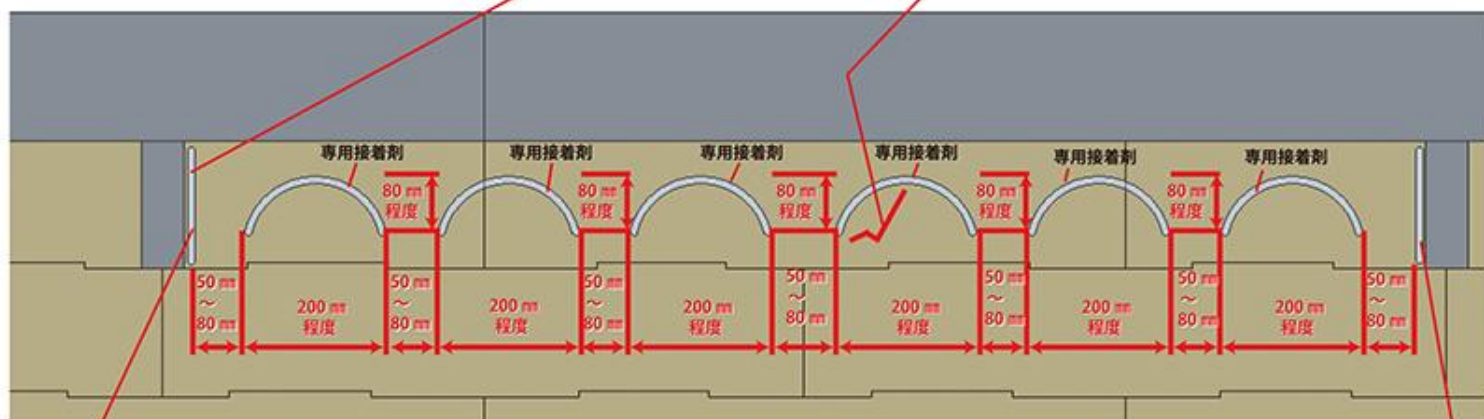
＊弧を描く理由は雨水が水上に侵入した場合に効率よく水下に排水させるためです。

また弧を描くと強風時にせん断抵抗力を効率よく発揮させるためでもあります

シーガード専用接着剤の塗布方法（参考寸法）

ウォーターチャンネル横にまっすぐ1本専用ボンドを塗布してください。

クラックがある場合は、接着剤で補修してください。



近づけすぎて本体が施工されたとき、接着剤が広がって接着剤どうしの隙間が閉塞されないように十分注意してください！！

ウォーターチャンネル横にまっすぐ1本専用接着剤を塗布してください。

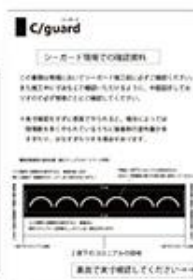
シーガード現場確認資料

塗布量や塗布方法・高さなどは現場ごとに納入されている。

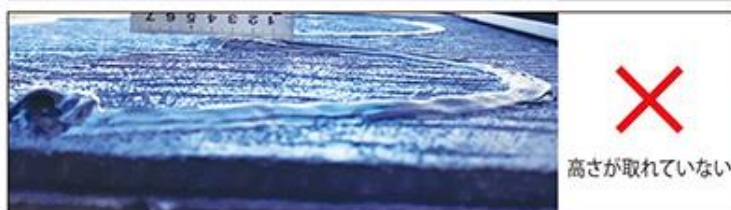
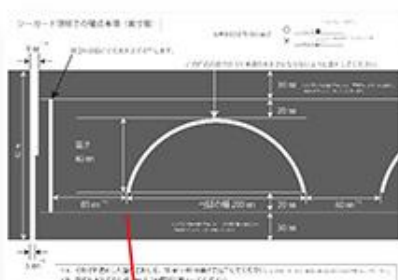
現場確認資料で実寸確認をしてください。

＊多くの現場をやっていると塗布量や塗布方法・高さなどがだんだん異なってしまう場合がありますので、現場毎に確認の徹底をお願いいたします。（おもに専用接着剤の箱に付いて納品されます。）

表紙



中身



足場へシーガード本体を立てかける際の留意点

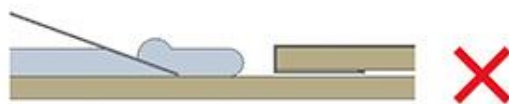
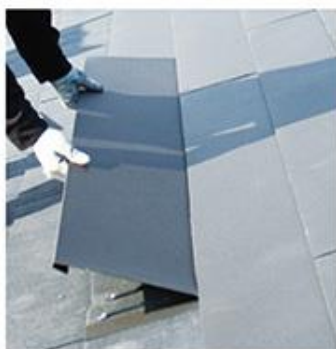
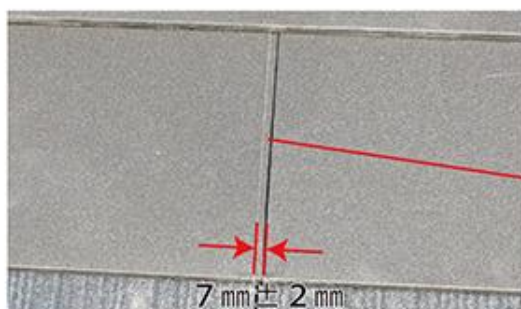
足場に屋根材本体梱包を斜め掛けする場合1山の重ねを15 ケースまでとしてください。下の段の本体が変形する場合があります。＊また足場のスパン荷重を優先で守ってください



- 4：シーガード本体を図のように接着剤が本体上部で差さらないように、平板スレート上下勘合部に差し込みます。そして平板スレート前端部にしっかり噛むように施工します。この際に左右の本体どおしの隙間を $7\text{ mm} \pm 2\text{ mm}$ に納まるように調整してください。シーガード前端部が既存平板スレート前端部に納まるように、拍子木やスカッパーなどでシーガード本体を押し込んでください。そして最後に本体上を手で押さえつけてシーガード本体と既存平板スレートが接着剤で圧着するようにしてください。

シーガード本体後端部を差し込み

シーガード本体を既存平板スレートの上下勘合部に差し込みます。右図のように接着剤がシーガード上についてしまわないように、差し込んでください。



シーガード本体を差し込むときに本体上端部に接着剤が差さらないようにしてください。接着剤が表面に出て本体が汚れます。



ウオーターチャンネル上は $7\text{ mm} \pm 2\text{ mm}$ 本体どうしを離してください。

シーガード本体前端部の差し込み

シーガード本体前端部は右の写真の注意点をよく考慮して押し込んでいきます。(別途ゴムハンマーやスカッパーなどを使用する場合もあります)

スチールヘッドのハンマーは、シーガード本体を直接打ち込まないようにしてください。またうまく入らないときは、何か引っかかっている可能性が高いので無理に打ち込まずに原因を解決すれば、スムーズに入ります。

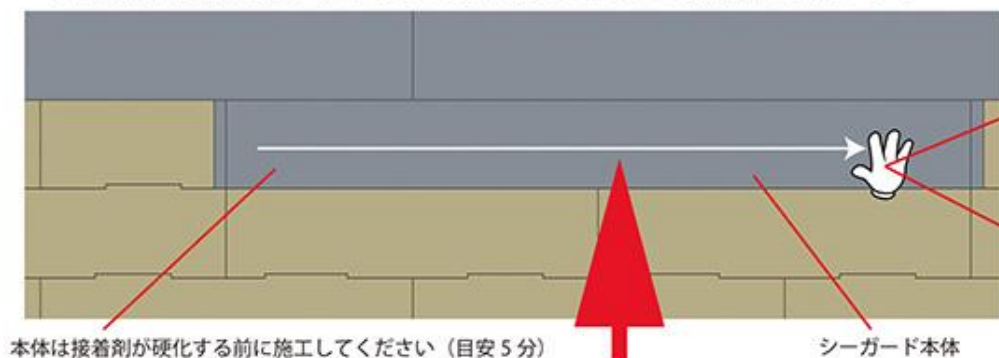
拍子木は、垂木や樹脂栈などの木っ端などよりも市販の栗や桤などの硬い樹種でできている製品としての拍子木のほうが入りやすく、途中で割れたり折れたりしにくいです。



拍子木で打ち込むときこの箇所を下に押さえつけるようにしながら拍子木をうつを本体が平板スレートに入っているやすいです。

シーガード本体と専用接着剤の圧着

本体取り付け後、接着剤をしっかり圧着させる意味で手で本体を下図の要領で押し付けて下さい。



本体は接着剤が硬化する前に施工してください(目安 5 分)



本体取り付け後、接着剤をしっかり圧着させる意味で手で本体を押し付けて下さい。

本体施工直後はできるだけ本体に乗らないでください。(乗る場合は 30 分以上開けて静かにできるだけ短時間で)

基本的な施工方法 ④

- ①シーガード本体を差し込みます。
既存コロニアルの上下勘合が
タイトな場合は写真のように
あらかじめパールをはめ込んで
おくとはまりやすい。↓



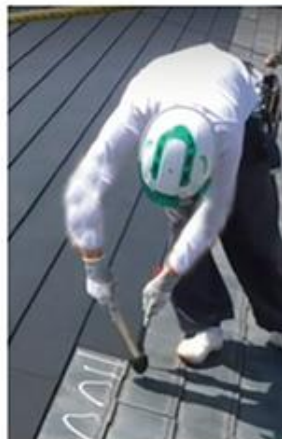
パールは 300 mm くらいの大きさのものがおすすめです。内装用平パールでも施工できます。

* 入りにくいときは、平パールやスクレーパーを上下勘合にあらかじめ差し込みます。

- ②市販のゴムハンマーを加工したハンマーでシーガード本体前端部を押し込んでいきます。ゴムハンマーだけではなく、拍子木を当ててハンマーでたたいたり、板金加工用の田楽槌（でんがくつち）などで押し込んでも大丈夫です。↓



ゴムハンマー



* 拍子木やハンマーを使用しないでも入る場合もあります。

拍子木を当ててハンマーで打つ



←③最後にシーガード左右勘合の隙間を調整するため、シーガード端部にパールを当ててハンマーでおします。

シーガードがコロニアルに入っていない時は主に以下の原因が多いです。

●シーガードの下あごがコロニアルの前端部に当たってしまっている。

シーガード 1 枚を施工する下のコロニアルには 2 か所コロニアルの左右勘合があります。そこにコロニアルの段差が発生しているとシーガードが写真のようになって、上に上がらなくなってしまいます。このような場合はコロニアル左右勘合部にパールを差して浮かせるようにして、再び差し込むと抵抗なく上がっていきます。

*無理や力ずくでもこのような場合は絶対上がっていかないことを心得てください。引っ掛かっている原因を排除すればあまり力を入れずにすんなり入りますことを心得てください。

*既存屋根面の不陸が暴れているときにも起きやすいです。



対処としてはこちらをパールなどで上げる。

*よくある入らない原因としてコロニアルの勘合に段差があってシーガードが入らない…

●隅棟やケラバ部・谷部の小さなコロニアルの割り付けがシリコンで接着してある。

これもよくあります。このような場合は全く歯が立ちません・・・

写真のように該当する箇所の下あごをカットして、シーガードを取り付けるようにしてください。

*隅棟やケラバ部・谷部だけでなく本体中央部でもありますが（これは既存コロニアルの割れの差し替えなどがしてあるとき）このような状況も想定しておくに対処が容易になります。



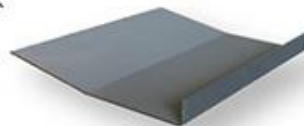
●Mキャッチャー

急勾配時に上下勘合部が空きすぎていて、本体施工後本体が落ちてしまう場合や、ミルフィーユ状に層間剥離している場合などや、その他の理由で上下勘合が入りにくい場合、これを本体施工前にコロニアルの左右勘合部にあらかじめ入れてから本体を施工すると、問題が解決する場合があります。推奨部材です。



既存コロニアルの左右勘合部に本体施工前に設置します。
*全部の横勘合に入れなくても落ちないこともあるので、現場で適量を入れるようにしてください。

Mキャッチャーは現地調達でも既製品でも大丈夫ですが、ガルバリウム鋼板の生地が見えている鋼板の使用は避けてください。白錆を早期に誘発する恐れがあります。また丸のこやサンダーで切断したものの仕様は避けてください。赤さびを発生させる恐れがあります。



①基本的には既存屋根材の横勘合部に入れます。



②既存屋根材の前端部に合わせて納めてください。



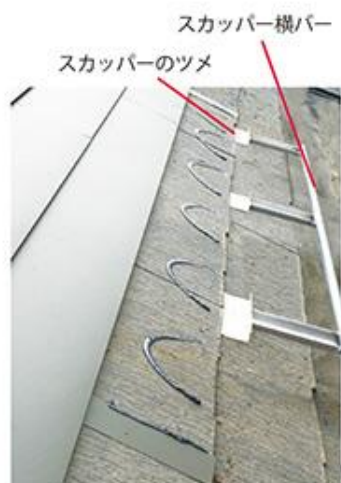
金具などが止まっていって入りにくいときも有効です。



●スカッパー（屋根材挿入補助工具*参考出品）

特に過去塗装したコロニアルやアーパニーなどは下反りしてシーガードがうまくはまりにくい場合ある時は、スカッパー という工具がお勧めです。

*もちろんなくても施工されていらっしゃる方も多いです。



②ゴムハンマーで横バーをたたくと横バーをたたくと入っていく。

●スカッパーの使用例

①スカッパーを差し込みます



②本体をセッティングしてシーガード本体をはめ込みます。

図のA～Eの手順でスカッパーを使ってシーガード本体を入れると入れやすい。

E：横バーを手やハンマーでシーガード本体がコロニアルにしっかりはまるように押し込みます。

D：シーガード本体をスカッパーに下図のようにセッティングします。



*必ず向かって左はコロニアル勘合部に合わせる（アーパニーはじめスリット3タブタイプの場合は ロングスリットの場所に合わせます。）



長さ 1,200 mm

A：スカッパーの横バーを左膝でしたにおろす。

B：手で差し込むシーガードを抑える



C：コロニアル上下勘合に隙間があきます。

施工の大まかな流れ

① 本体棟・水平壁際の張り出し



↑シーガードの棟際は上の写真のように棟際のコロニアル前端から棟板金の耳の付け根までの寸法で納めます。

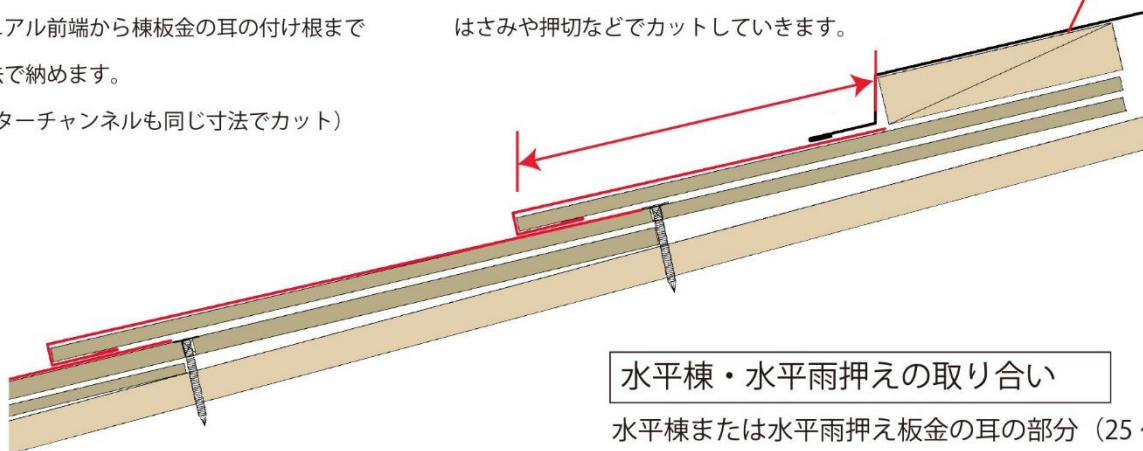
(ウォーターチャンネルも同じ寸法でカット)

シーガードは基本的に棟や水平壁から軒先に向かって施工していきます。
張りだしの棟・水平壁際は下記のように施工していきます。



↑シーガードの上部を左の写真で測った寸法でけがき、はさみや押切などでカットしていきます。

水平棟または
水平雨押え板金



入りにくいときは下の写真のようにバールで板金の端部を軽くあげて差し込みます。



水平棟・水平雨押えの取り合い

水平棟または水平雨押え板金の耳の部分 (25 ~ 30 mm) 本体が差し込んでおさまるように本体をけがき、カットして施工します。

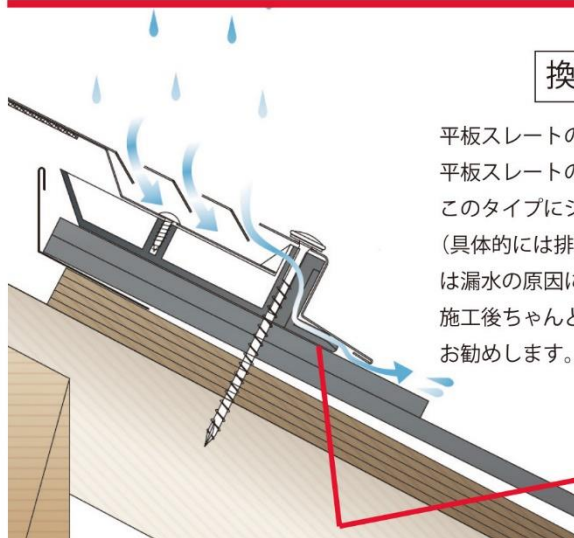


換気棟の施工に要注意！！

平板スレートの換気棟のタイプによって雨水を棟の板金の中に一度入れてから平板スレートの取り合い部分 (みみ) から排水するタイプが多く見受けられます。このタイプにシーガード本体を差し込むときはその排水の流れを止めるようなこと、(具体的には排水路の上にシーガード本体上端部が納まってしまうこと) は漏水の原因になるので絶対にしないでください。

施工後ちゃんと換気棟の排水ができているか確認することをお勧めします。

この箇所の換気棟の排水の妨げになるように本体差し込むことは絶対にしないようにしてください！

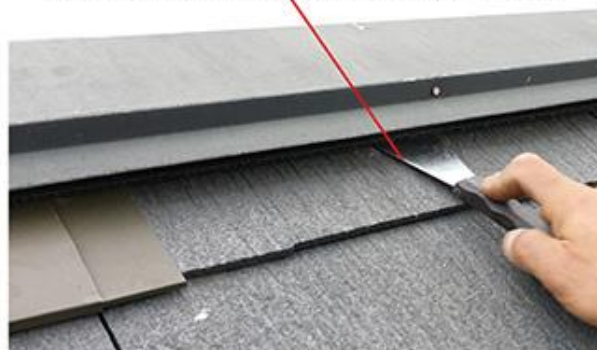


該当の換気棟の外観

●換気棟(ハニカム型)の施工

既存屋根にハニカム型(右写真のようにポリエチレン製でストロー状の穴があいたタイプの換気棟)の換気棟の施工は以下の点に注意して施工してください。

- ①平板スレートと換気棟の間にしっかりとシーガードが入るように事前に皮すきなどを差し込み界面のごみなどを除去する。

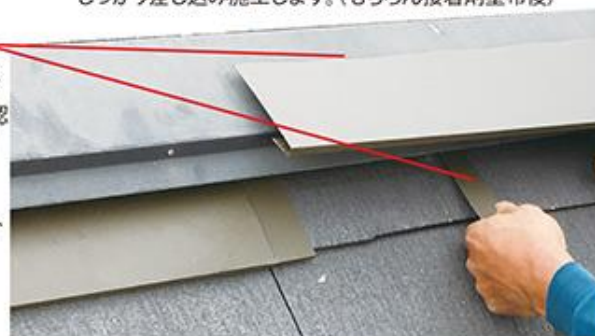


ストロー状の無数の穴があいたタイプの換気棟



- ↑③シーガード本体を平板スレートと換気棟の界面にしっかりと差し込み施工します。(もちろん接着剤塗布後)

- ②事前に板金片を差し込みどれくらい差し込めるかを確認して、本体の納まりの長さを決めて、本体上端部をカットします。



●すがり部の施工(1例)

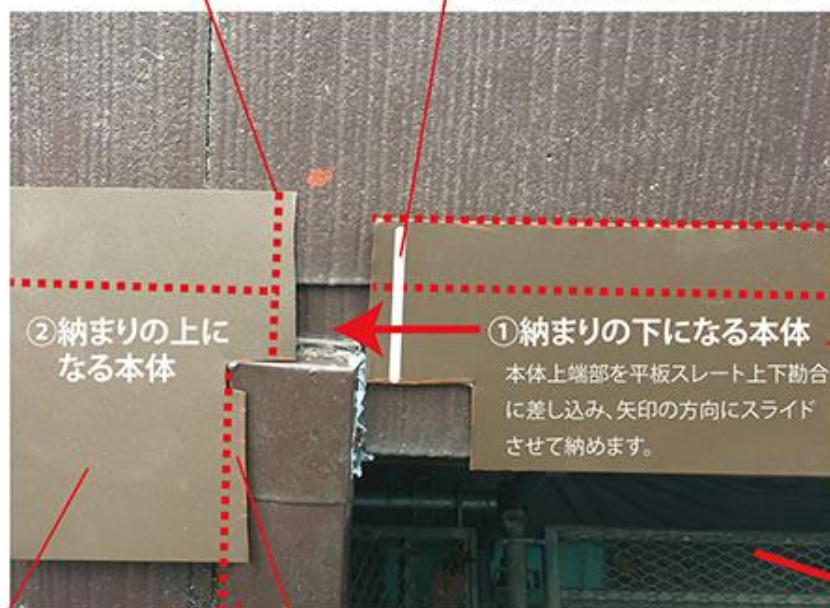
すがり部は下図の通り、まず①の本体を写真のように加工してスライドさせて納めます。

次に写真②の本体を加工し納めた後にケラバ隅の取り合いと本体①・②の取り合い部をシーリング材で納めます。

＊紫外線暴露部には、接着剤を施工しないようにしてください。

まっすぐカットするか、点線のラインで折り曲げて体裁を整える。

シーリング材もしくは接着剤を捨て打ち



40mm差し込めるように本体上端部をカットし差し込む。

もちろん接着剤は塗布してください。

ケラバ捨板(B型)

この箇所はケラバ捨板の中に納める。

もちろん接着剤は塗布してください。

破線部をシリコンなどで納めてください。

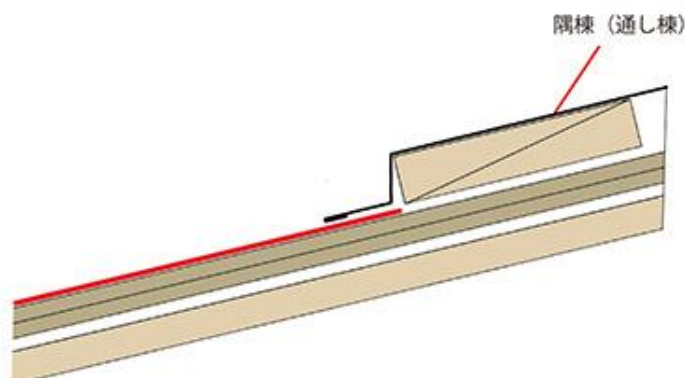


施工の大まかな流れ

②隅棟(通し棟)取り合いの施工



シーガード隅棟(通し棟の場合)は以下の要領で採寸・切断をしてください。



通し棟の場合はウォーターチャンネルから隅棟板金の耳の付け根までの寸法を測ってください。写真のように既存屋根材の下端部を測るようにしてください。(目検の場合小さくケがいてしまったと錯覚することがあります。)

シーガード本体の斜めカットの施工例

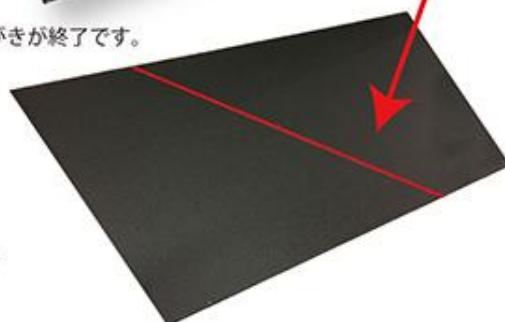
①シーガード本体にスケールを当てて、上の写真で測った位置を印します。



②隅棟の勾配に合わせた勾配定規を印の位置に合わせて斜めにけがきます。



③けがきが終了です。



←④表面のけがいたラインをはさみでカットします。



←⑤本体を裏返して、表面のけがいた角度に合わせて、下あごをカットします。
*このときやや表面の角度よりも鈍角にカットすることをおすすめします。(隅切り効果が出るので)

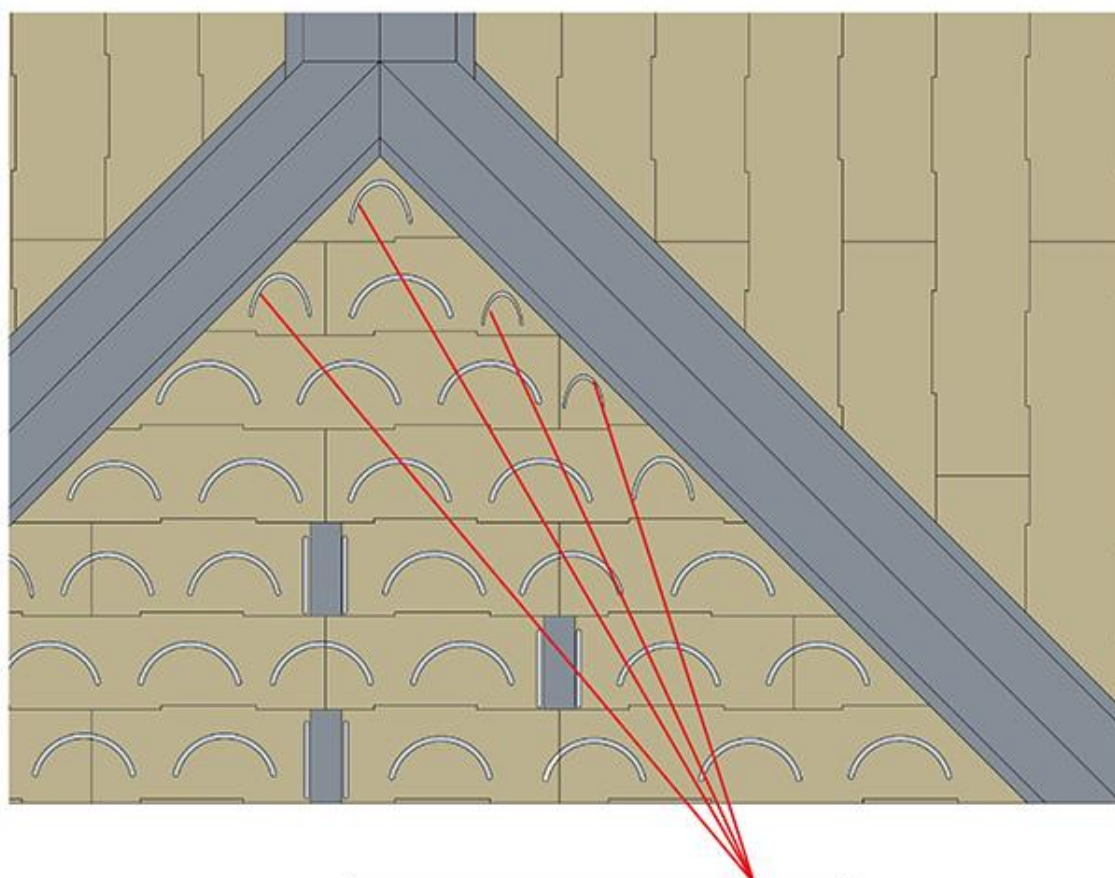


←⑥シーガード本体を写真のように開いて、最後に立ち上がりりをカットします。

施工の大まかな流れ

②隅棟(通し棟)取り合いの施工

シーガードの隅棟周りの専用接着剤は以下の注意点確認していただき施工してください。



隅棟の接着剤の塗布(棟包施工時)

隅棟部は棟包板金に接触しないようにしながら、接着剤の大きさを調整して、端部も本体がしっかり接着することを考慮してください。

* 棟包板金に沿ってまっすぐ接着剤は打たないでください。強風時に板金部に差さった雨水が排水できません。

* 必要箇所以外の接着剤の塗布は雨水の流れを妨げる可能性があるためできるだけ避けてください。



施工の大まかな流れ

③隅棟(差棟)取り合いの施工



●差棟施工の注意点

既存屋根が差棟で、シーガードも差棟で仕上げるときは、新規差棟を以下の1～4の手順で取り付けてください。

1:シーガード本体を差棟の上から隅棟芯に納まるように施工します。
この時差棟と既存屋根材の段差が1ミリ程度ありますが、シーガード本体をこの上に施工すると隅棟側に微妙に跳ね上がった感じで納まるので、この箇所の接着剤は高く盛ってシーガード裏面にちゃんと接着しているか確認してください。



2:シーガード本体を隅棟芯に合わせて納めて、差棟が納まる箇所の両サイドに、専用接着剤もしくは変成シリコンを塗布します。



3:差棟上部が30mm以上、上の段の下に入り込むように差棟をはさみで加工し、
差棟をシリコンで表面を汚さないように丁寧に差し込んでいきます。

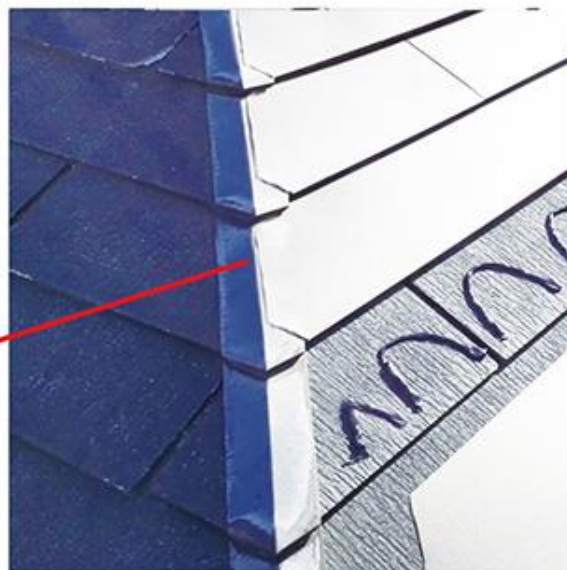


4:既存の平板スレートの施工で差棟の納まりが本体を両面の通りを合わせるために無理やり曲げておさえている施工も少なくはないので、そのような通りのズレを少しでもおかしく見えないように整えてください。

*やむを得ない場合はシリコンで隙間を丁寧に充填するなどして対処してください

隅棟の専用接着剤の塗布方法は前頁と同じ方法で塗布してください。

差棟の場合はウォーターチャンネルから、本体とおしの隙間7mmを考慮して隅棟芯までを測って、けがき、カットしてください。



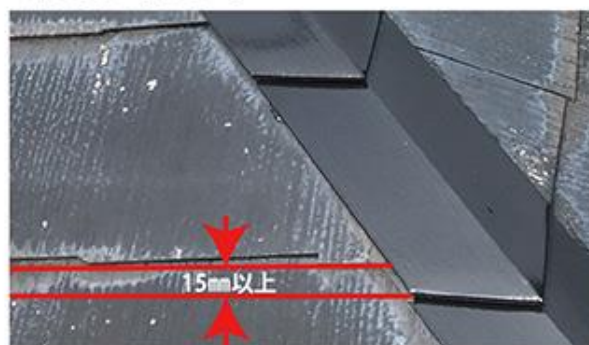
施工の大まかな流れ

③隅棟(差棟)取り合いの施工

既存屋根の差棟の左右の通りがずれている際は下記のように施工してください。

* 差棟の左右の通りが15mm以上ずれている

このような場合はシーガードを隅棟芯で無理やり合わせるとシーガード前端部のCロックが既存屋根前端部にかからないので、下の右の写真のように既存差棟前端部をカットしてシーガードを施工しその上から差棟を施工するか、通し棟板金を新規取付するかで対処してください。仕上げの差棟の隙間が大きいときはシリコンなどで隙間を埋めるなどの処理をして下さい。



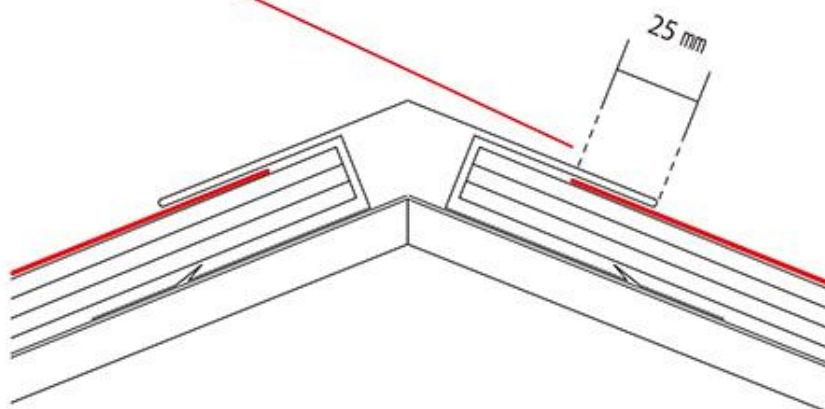
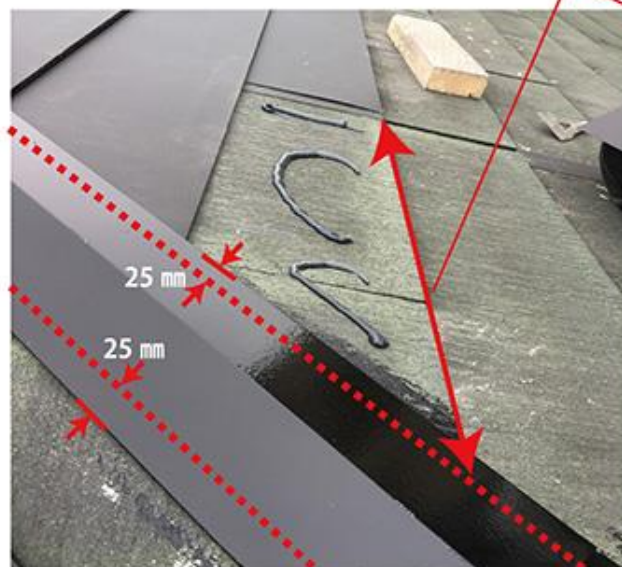
既存差棟前端部をカット

施工の大まかな流れ

④隅棟(隅棟役物)取り合いの施工

既存屋根が隅棟役物を使用している場合は下記要領で施工して下さい。

シーガード本体を隅棟役物に25mmの差し込んで納めるように寸法を測って、けがき、カットして差し込んでください。



施工の大まかな流れ

- ⑤谷部・ケラバ部・スガリ部・棟際の平板スレート部の接着剤の塗布
棟違い部の本体施工の注意点

棟・水平雨押えなどの
取り合いで既存平板スレート
本体が少ししか見えていない箇所

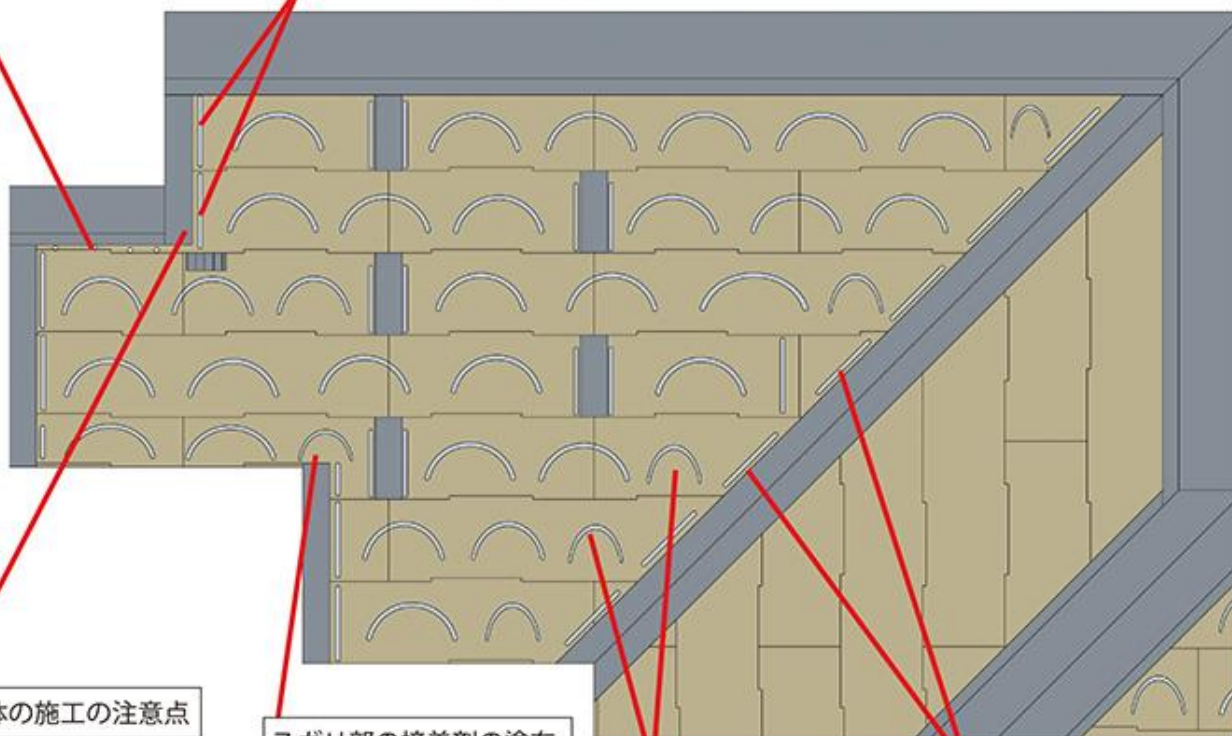
平板スレートの流れ方向の割りの都合で、
本体があまり見えていない箇所は、接着剤
を10円玉大（高さは5mm以上）の大きさに
塗布してください



↑
流れが短すぎるときは、本体側に接着剤
を塗布して施工することもお勧めです。
（高さは5mm以上）

ケラバ部の接着剤の塗布

ケラバ部は棟包み板金に接触しないように5mm～10mm離して縦方向にまっすぐ塗布します



棟違い部の本体の施工の注意点

棟違い部の施工は下の写真の注意点を
必ず守って施工してください。

スガリ部の接着剤の塗布

スガリ部のケラバ板金上部を囲う
ように接着剤を塗布してください

谷部の接着剤の塗布

谷部は谷際の接着剤に接触
しないようにしながら、接
着剤の大きさを調整して、
塗布してください。

谷際の接着剤の塗布

谷際は既存平板スレートの
谷の通りの本体上に斜めに
塗布してください



棟違いのケラバ板金の捨て板部は必ず
シーガード本体の上に納まるように
シーガード本体を差し込んでください。

棟の取り合いには棟包みの中に25mm～30mm
入るようにはげき、カットして差し込んでください

C/guard

施工の大まかな流れ

⑥谷の施工 その1

* 谷カバーで谷部を納める場合

谷を谷カバー部材を使用して納まる場合には以下の方法で施工し、留め付けてください。

ヤマヒロ トルネードポイント



頭カラー着色

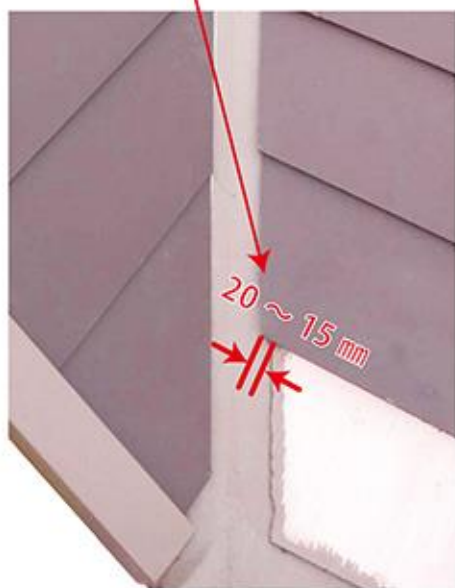
トルネードポイント4×13

250本/袋

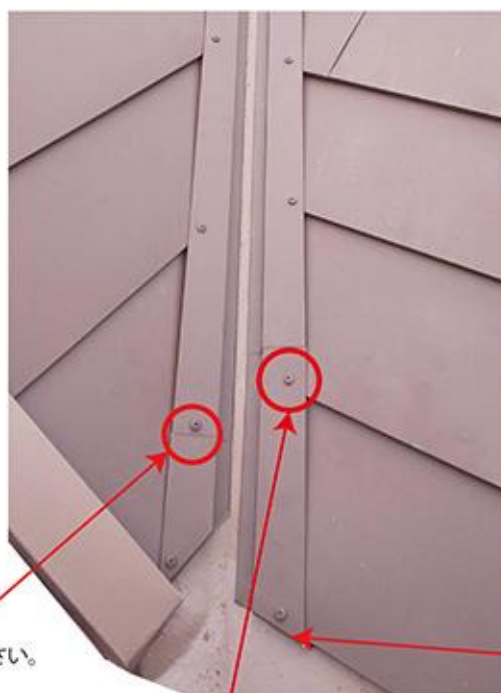


1: シーガード本体の施工

既存の谷のラインより水平方向に20～25mmシーガード本体を伸ばして納めて、端部は切りっぱなしにして取り付けます。



谷カバー後端部を継ぐときは、15～30mm程度重ね、重ねの下に来る箇所はナナメにカットして継いでください。



谷カバー前端部は折り下げ加工をしてください。

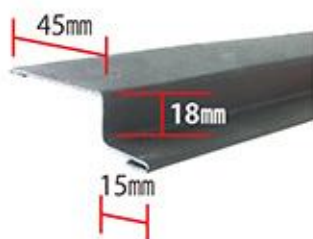
●シーガード谷カバー

谷部を納める部材

(折下げて納める場合には不要)

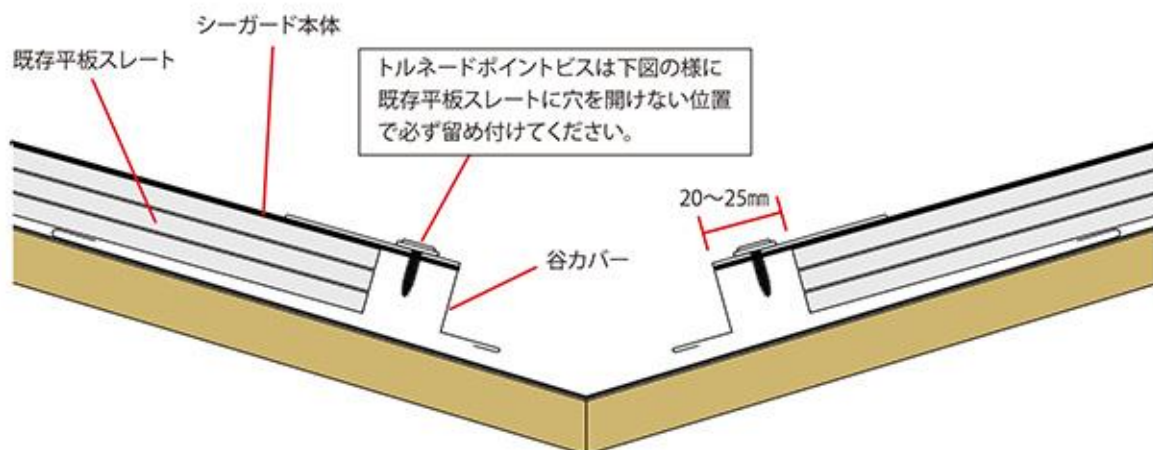
留付けはジャックポイント4×13

* 本体色とは若干色が異なります。



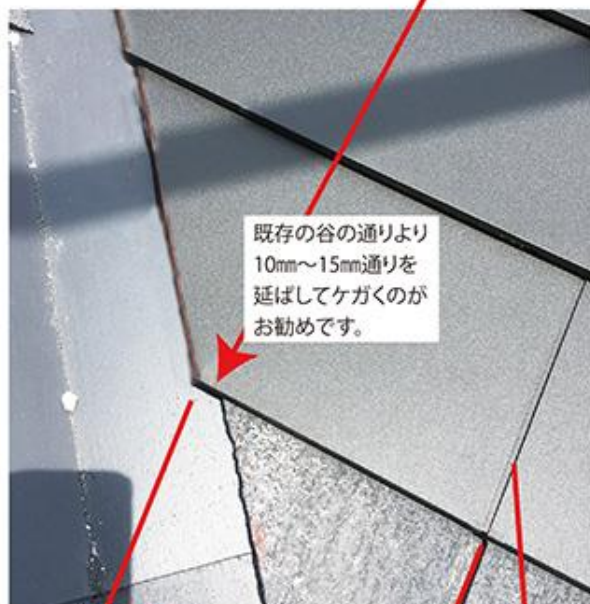
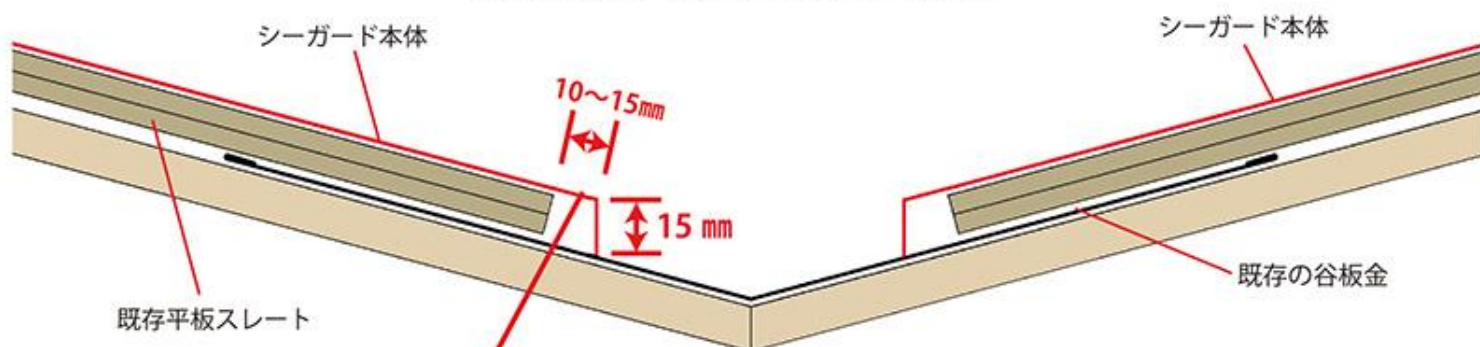
2: 谷カバーの取り付け

専用ビス トルネードポイント 4×13 を必ずシーガード本体前端部の既存屋根がない箇所に留付けてください。



施工の大まかな流れ
⑥谷の施工 その2

*折り下げ加工で谷部を納める場合
谷部の納まりは下記のように施工してください

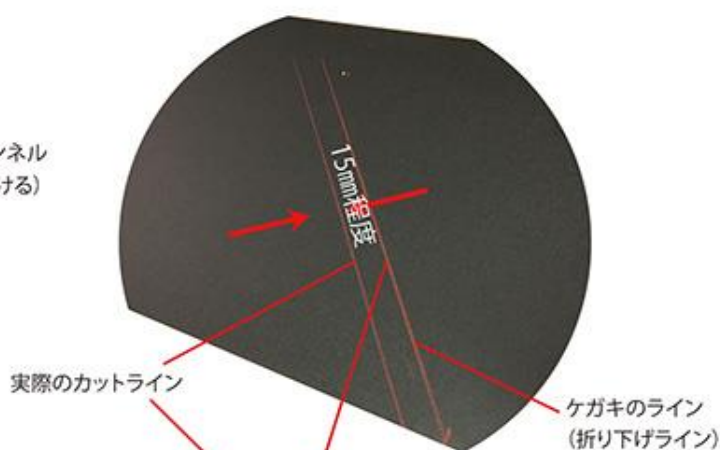


谷の通り・ケガキ・カット

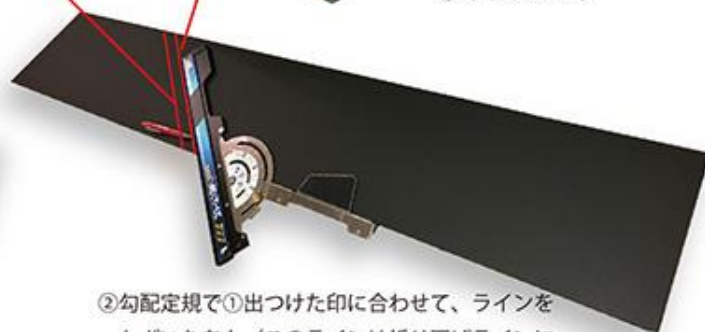
谷の通りは左の写真のように既存屋根の通りよりも10mmから15mm延ばしてケガキすることをお勧めしております。(これによって既存谷部に本体を入れやすくなります)もちろん既存の通りに合わせて施工していただいても問題ございません。下図のように本体を折り下げ加工をするラインまでケガいてカットしてください。

この長さを図って、勾配定規でケガキすることをお勧めします。
*目検で出ると、大きくケガいがあります

ウォーターチャンネル
(7mm±2mm開ける)



①測った長さをスケールで出して、印をつけます。



②勾配定規で①出つけた印に合わせて、ラインをケガいたあと(このラインは折り下げラインになります)その15mm外に勾配定規でカットラインをケガキます

施工の大まかな流れ

⑥谷の施工 その2

*折り下げ加工で谷部を納める場合

谷部の納まりは下記のように施工してください

谷の折り下げ・隅切

ケガいた折り下げラインに鼻曲げ(もしくはつかみ)を合わせてきれいに折り下げ加工をしてください。そして上下勘合で隠れる部分であることが条件ですが、谷の上端部の角を下の写真のように横方向と縦方向に30mm隅切加工をすると、既存谷部に本体を差し込みやすくなります。

(隅切加工しなくても問題はございません。)

*谷の通りはできるだけきれいに通すように心がけてください。



●谷部折り下げ加工

- ①鼻曲げもしくはつかみを折り下げラインに合わせて

写真は15mm用
鼻曲げ



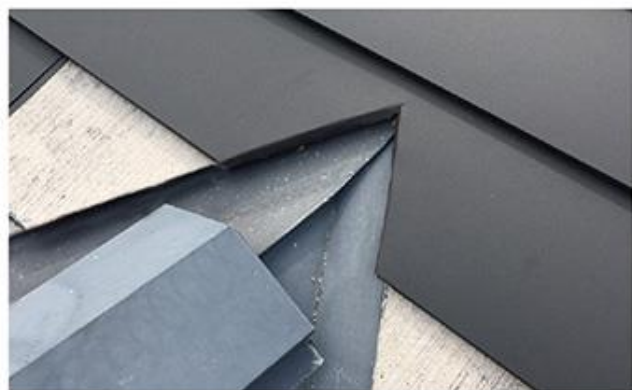
- ②きれいに垂直に折り下げます。



●谷部の隅切加工(推奨)

- ①上下勘合で隠れる部分であることが条件です。
谷の上端部の角を下の写真のように横方向と縦方向に30mmの部分をカットします。

- ②隅切加工後の写真です。
谷部に差し込みやすくなるための加工です。この加工は推奨加工ですので、隅切加工をしないでも問題はありません。



←ドーマー頂部は左の写真のように加工して施工してください。

施工の大まかな流れ

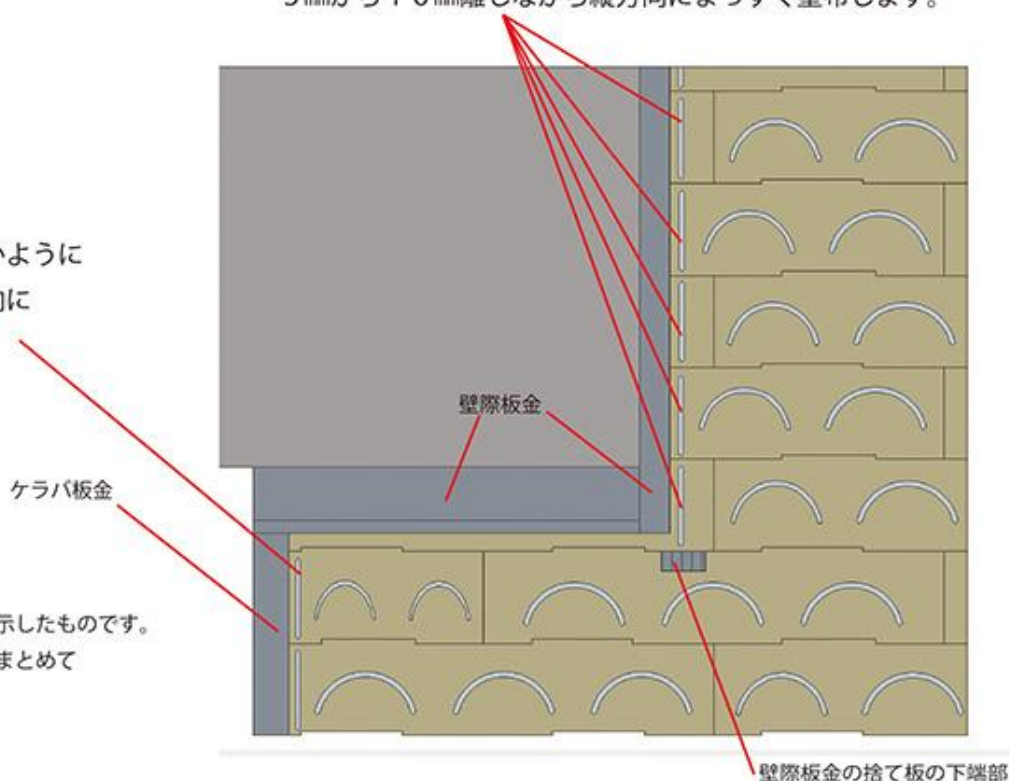
⑦ ケラバ・流れ壁部の施工

ケラバ部の接着剤の塗布

ケラバ部は棟包板金に接触しないように
5mmから10mm離しながら縦方向に
まっすぐ塗布します。

流れ壁部の接着剤の塗布

流れ壁部は壁際の仕上げ板金や外壁に接触しないように
5mmから10mm離しながら縦方向にまっすぐ塗布します。



*下図は各部の接着剤の塗布要領を示したものです。
実際の施工は接着剤は図のようにまとめて
塗布しないようにしてください。

ケラバ部の施工

右のページの図の通りにツメ付・ツメなしのケラバ板金の立ち上がり部分までしっかり
本体があたるようにけがきしっかりと差し込みます。

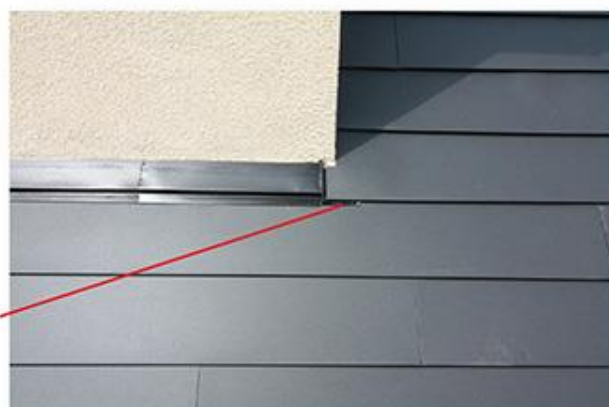
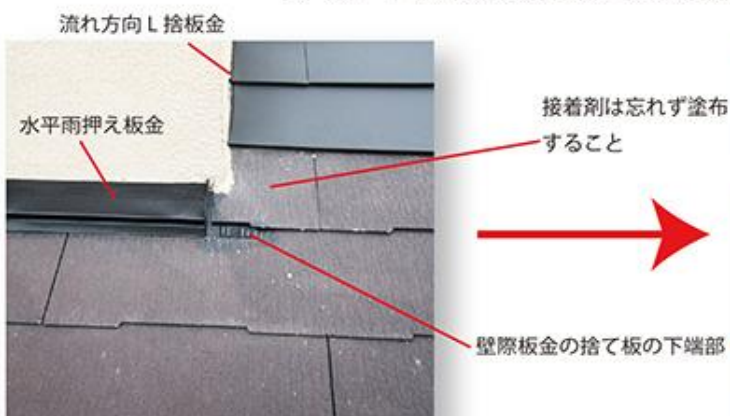


施工後

ツメに入りにくいとき、パールなどで少し広げて入れてください。

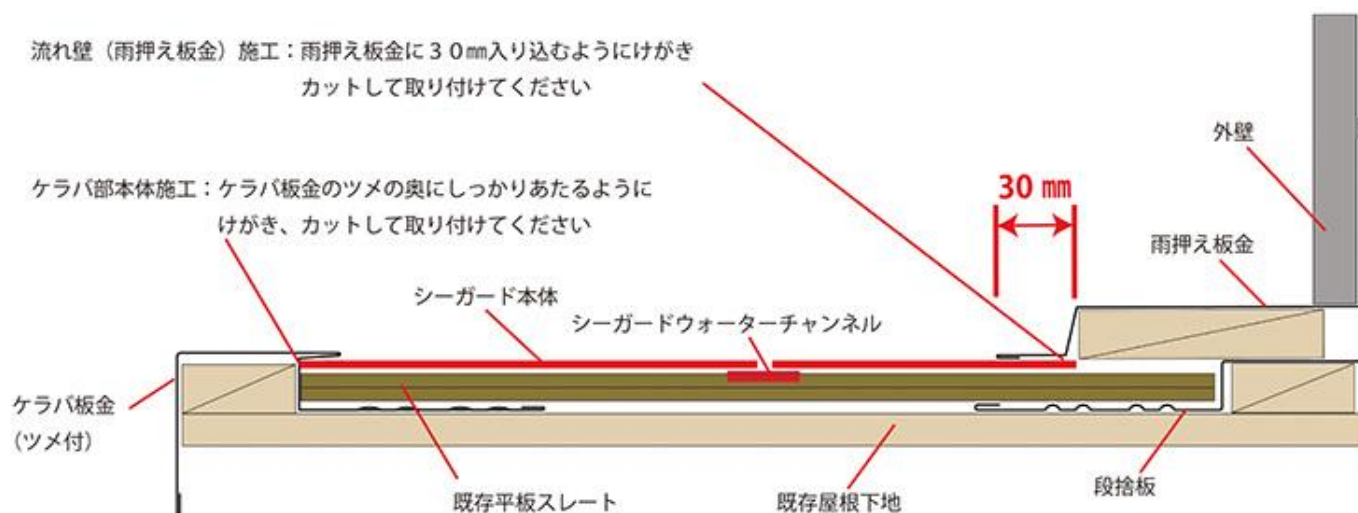
壁際出隅の施工

出隅部は流れ方向から出てくる壁際板金捨て板の下端部を
シーガード本体でふさがないようにおさめてください。(天窓下端部角も同じ施工です。)

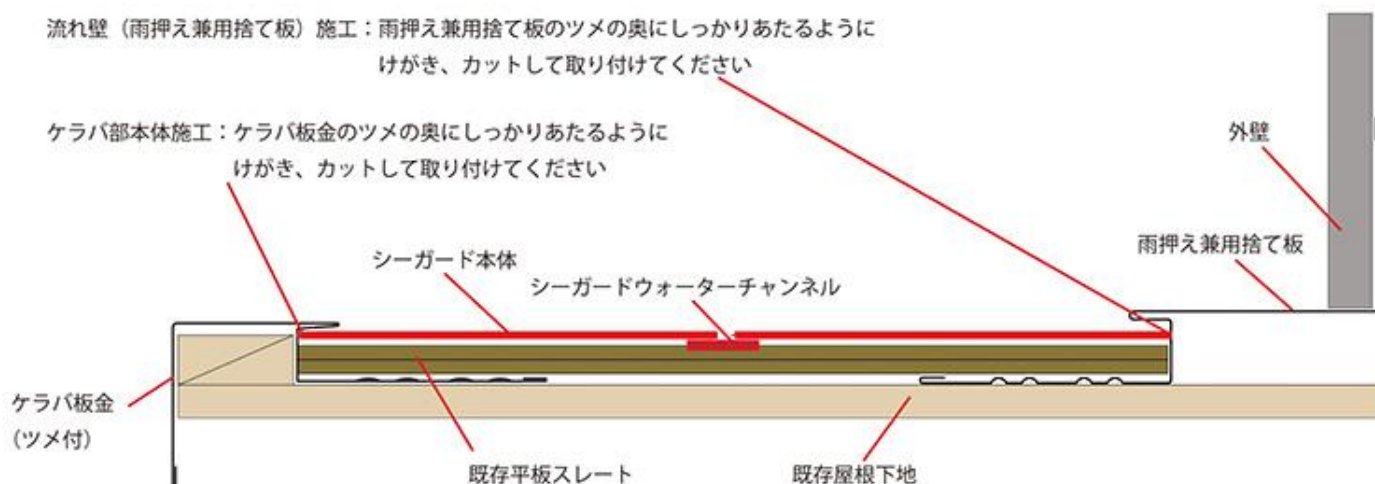


ケラバ・流れ壁の各種納まり例 ケラバと流れ壁の組み合わせはそれぞれ違う場合があります。

A: ケラバ板金（ツメ付）と流れ壁（雨押え板金）



B: ケラバ板金（ツメ付）と流れ壁（雨押え兼用捨て板の場合）



C: ケラバ板金（ツメなし）と流れ壁（L 捨て板金で納まりの場合）



流方向雨押えの納まり 既存平板スレートが以下の3種で納まっているので以下の方法でそれぞれ納めてください
(前頁の図参照)

① L型捨て板 (壁ドン付)



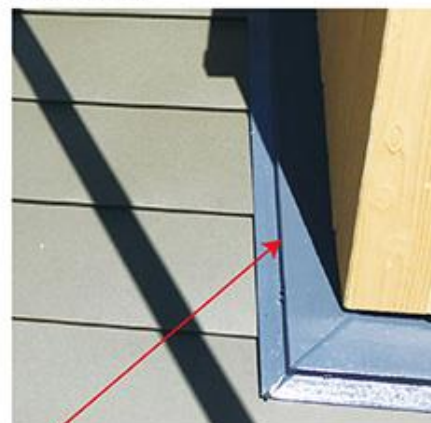
シーガード本体は端部を10mmくらい返して納め、取り合いはシーリングはしないようにしてください。

② 雨兼納まり



雨兼(雨押え兼用水切り)はこの箇所が15mmつばになっておりコロニアルは15mmつばに飲み込まれているので、シーガード本体は10mm程度つばの中に入るように納める。

③ 雨押え納まり



流方向が雨押えの場合は、桁方向の納まりと同じく、耳の根元まで、シーガード本体が納まるように施工してください。

ケラバの納まり

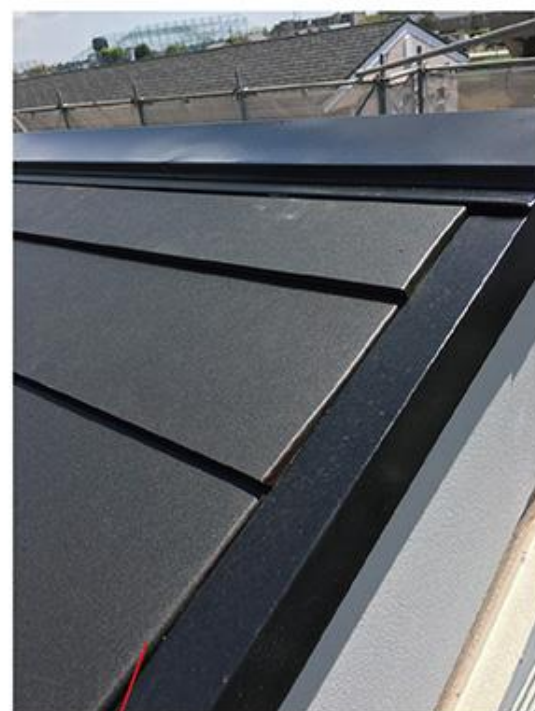
既存ケラバ板金が2種類あるので以下の方法でそれぞれ納めてください
(前頁の図参照)

① B ケラバ (一般的なケラバ板金)



B ケラバはこの箇所が15mmつばになっておりコロニアルは15mmつばに飲み込まれているので、シーガード本体は10mm程度つばの中に入るように納める。

② A ケラバ (古いケラバ板金でまれにある)



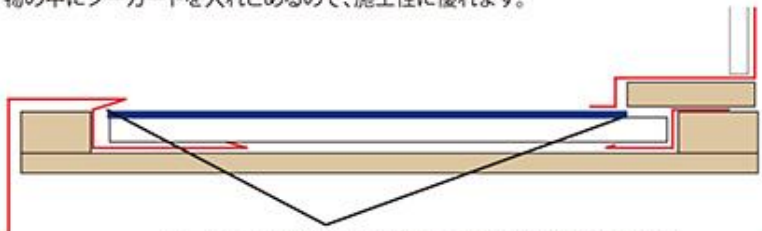
A ケラバはB ケラバと違いつばがなく、コロニアルがケラバ板金に突きつけておさまっています。シーガード本体を切りっぱなしで納めるとコロニアルの小口が隠れないので、写真のように折下げ加工します。



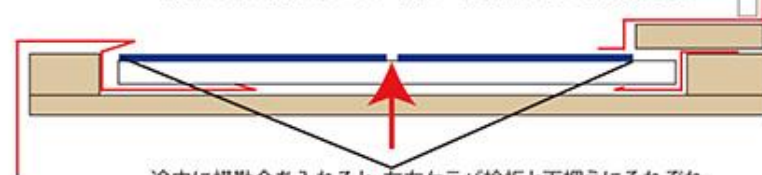
壁際の納まりの注意事項

横方向が短くても1枚ものでは納まりにくい箇所

左右の長さが1817mm以内で本来でしたら1枚もので施工できる箇所でも右写真のような箇所は左右がそれぞれケラバ捨板と雨押えの中に本体を入れこまないといけませんので、とても入れづらいことが、想定されます。こんな場合は平板スレートの横勘合から200mm以上離れた箇所で、シーガードの横勘合を作り、施工するとそれぞれ左右1か所ずつ板金役物の中にシーガードを入れこめるので、施工性に優れます。



シーガード1枚ものを入れると左右ケラバ捨板と雨押えの両方の中に入れないといけなくて、慣れないと大変です。



途中で横勘合を入れると、左右ケラバ捨板と雨押えにそれぞれ入れられるので、施工性が良いです。

シーガードは小さな屋根部の取り合いの施工に優れています

●2重雨押えなどは基本的には雨押えタイプと施工は同じです。

ただし2重雨押えの外壁との取り合い部のシーリング材が切れていないか屋根単体の改修時にはチェックしてください。

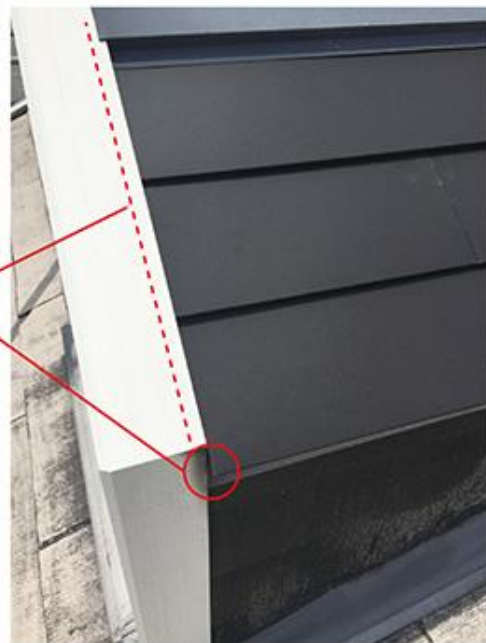


●特殊形状のケラバも施工はだいたいBケラバと同じ場合が多いです。



ケラバ部は破線まで入れ込みますが、軒先部20mmくらいが切欠くようにシーガードを納める施工例

シーガード本体はBケラバの施工と同じですが、屋根単体施工時に化粧材の勘合部のシーリングや雨仕舞・その他不具合がないかチェックしてください。

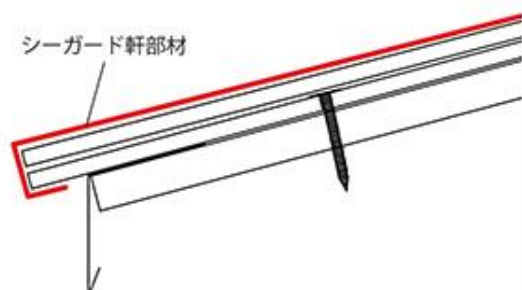
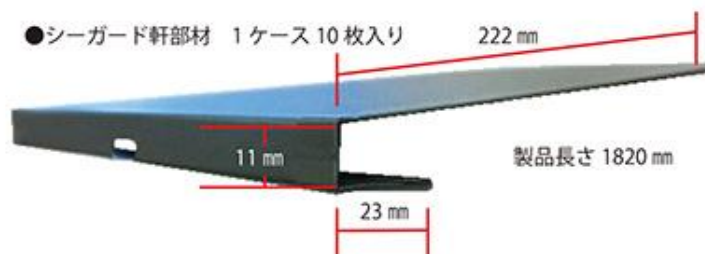


施工の大まかな流れ

⑧軒先の施工

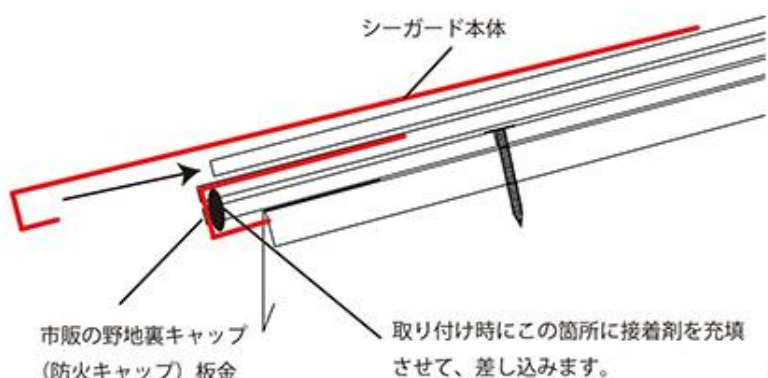
軒先の納まりは下記のように施工してください

①軒部材を使用して軒先を納めてください。



②アーパニー等の場合は軒先の標準施工が下の写真の通りスターターが2段になっているため、

①の軒部材が施工できません。右図のように市販の防火キャップ板金をスターター部に取り付け後、シーガードを取り付けます。



施工の大まかな流れ

⑨谷や隅棟の割で端物が入る場合の施工

谷や隅棟などで割り付けによって端部に小さい本体を入れなくてはならない場合は、わざわざウォーターチャンネルを入れずに、右図のように小さい本体を大きい本体側に60mm程度伸ばして、接着剤を捨て打ちしたあと、大きい本体をかぶせるような施工をすると納まりやすいです。

先に端部の小さい本体を施工します。

合わせライン

接着剤捨て打ち

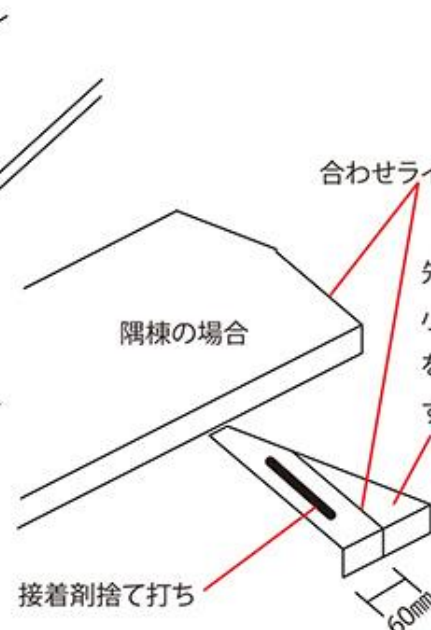


隅棟の場合

接着剤捨て打ち

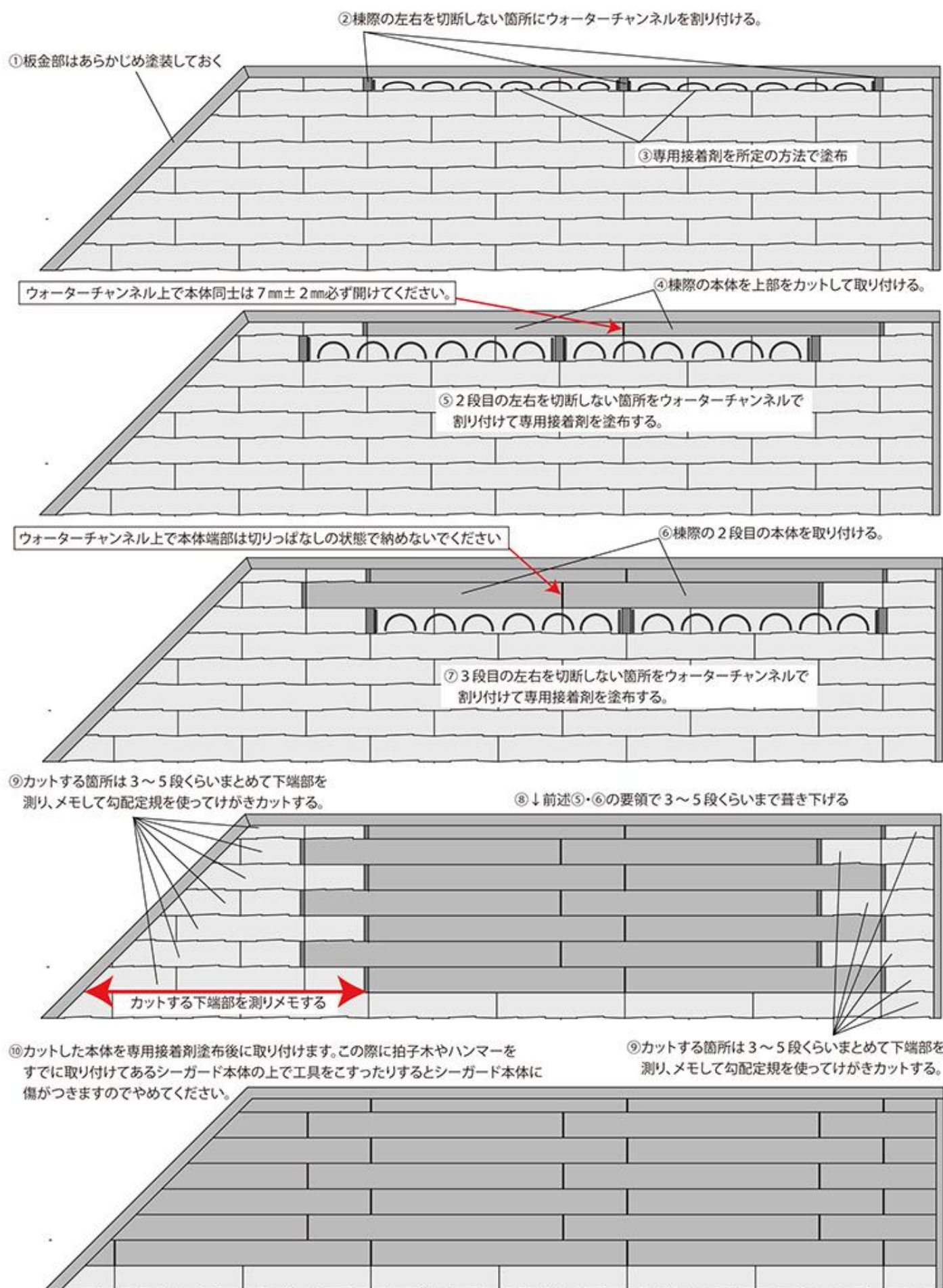
合わせライン

先に端部の小さい本体を施工します。



施工の大まかな流れ⑩シーガード施工の進め方の参考例

遵守する順序ではありませんが、初めての方はご参考にしてください。



天窓上のシーガードの施工例

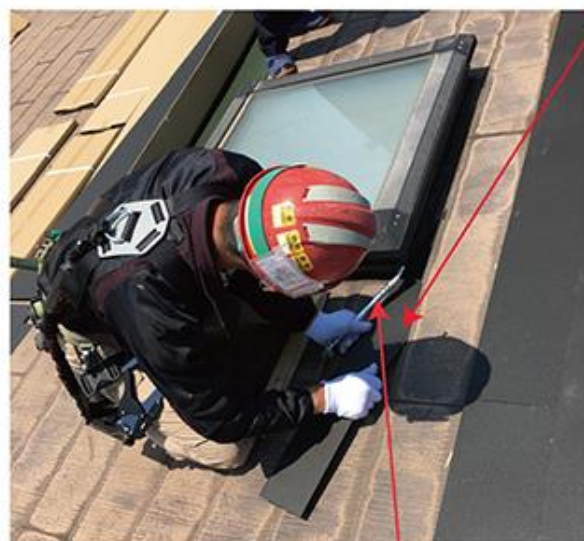
①天窓上部は下図のように加工して
横からスライドさせて入れます。

* 流れの暴露寸法が 100 mm 以下の場合は接着剤を付けない

流れ方向長さは暴露寸法 + 40 mm

長さは天窓長さ + 200 mm (左右 100 mm ずつ伸ばす)

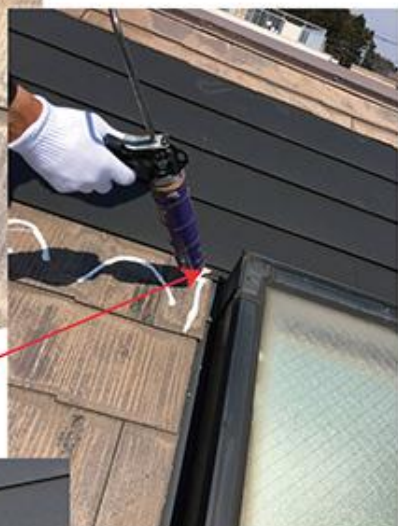
15 mm 返し暴露寸法が 100 mm 以上あるときは
下図のように前端部に腰を付ける。



* 差し込んでいる最中に斜めに上がって
いってしまう場合があるので、そのよ
うな場合はパールなどで下げながら、
スライドさせる。



②左右 100 mm 出して納める

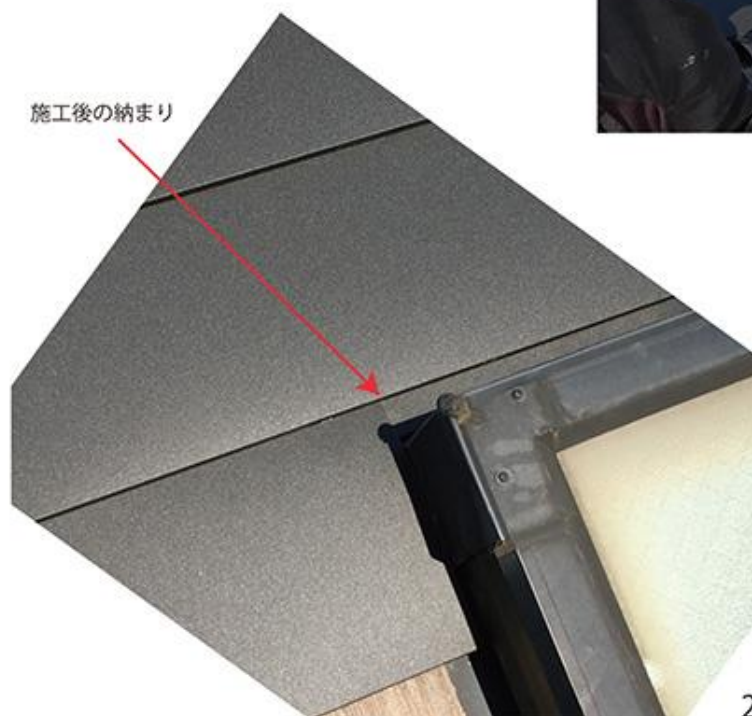


③専用ボンドを写真のように塗布します

④天窓際の既存屋根の寸法に合わせて
シーガードをカットして納めます。
この際出窓上に入れたシーガードの
100 mm 伸ばした部分は重なる納まり
です。



施工後の納まり



施工完了

C/guard

その他納まり②

軒先だけ差棟の箇所の施工

時々見受けられる納まりです。棟板金の木下地を留め付けるビスの位置によって①と②の納まりに別れます(①の納まりの場合が圧倒的に多いと思います)。



①の場合

差棟に30mmくらい差さる
感じでケガく。

棟木下地を留め付ける
ビスの前端部の位置

前端部の立ち上がり部は
差棟の折り下げ部で止まる
用にカットする。

本体カット図

②の場合

差棟に30mmくらい差さる
感じでケガく。

棟木下地を留め付ける
ビスの前端部の位置

前端部の立ち上がり部は
差棟の折り下げ部で止まる
用にカットする。

ビスにあたるのを避け水平方向に
逃げるようにケガき、棟板金の耳の
付け根に納まるように上のラインは
けがく。

本体カット図

C/guard

その他納まり③

既存雪止めとの取り合い施工

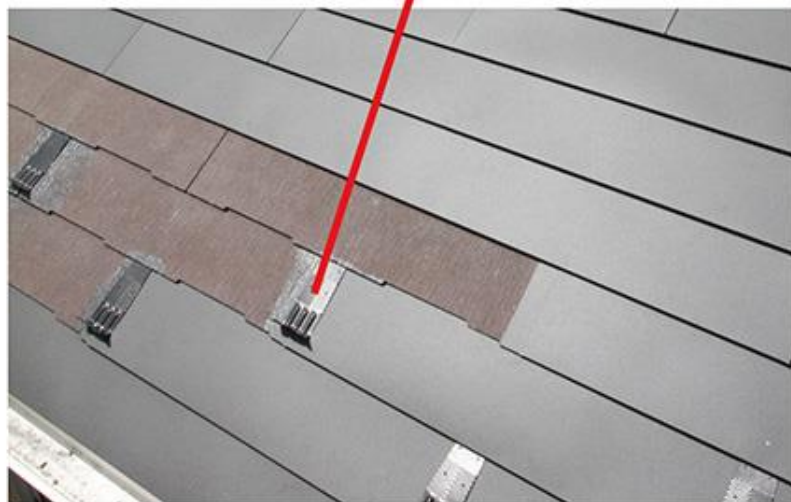
既存の雪止めと取り合う箇所は、専用接着剤を
周辺の平板スレート本体に塗布後、既存雪止め
を軽く上にあげてシーガード本体を雪止めの
下に納まるように施工していきます。



雪止め金具

一人で施工するときは、雪止めを上げるのが
大変な時があります。この時は上の写真の
ように本体側に差し込む前に専用接着剤を
塗布して施工することもできます。
*この時接着剤の塗布量はやや多めに
塗布してください。

*既存平板スレートに雪止め金具が
ついておらず、数年に1度ドカ雪の
降る地域には、屋根積雪時に落雪
し雨樋やその他物損や人身事故
が発生する場合がありますので、
雪止めの設置を強くお勧めしています。





シーガード

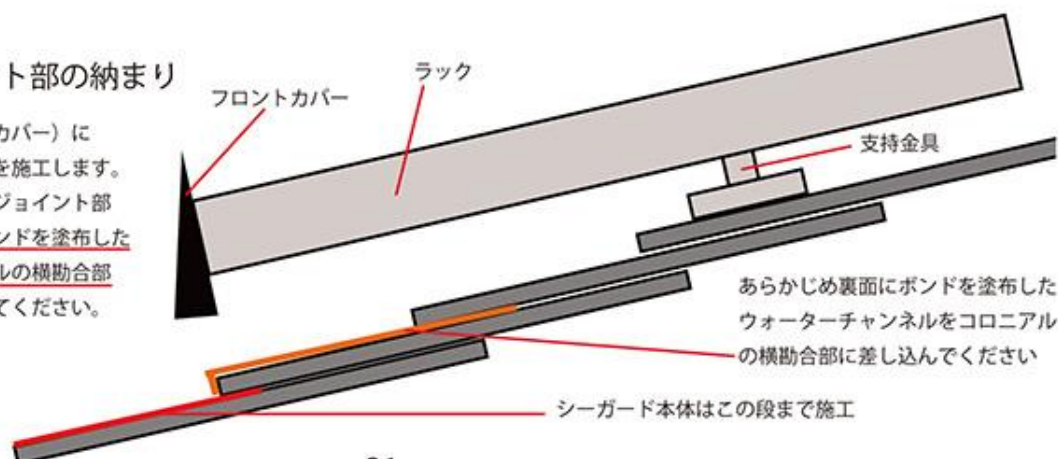
C/guard で

太陽光モジュール廻りを施工する際の注意点



●モジュールフロント部の納まり

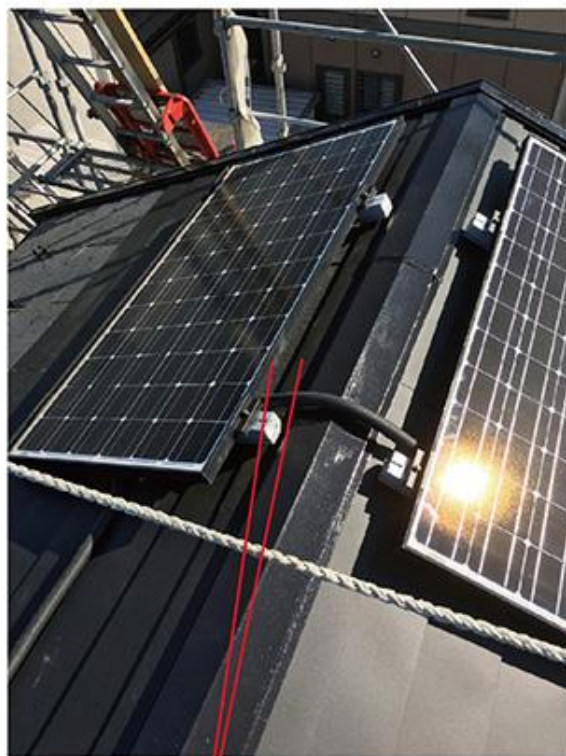
ラックの前端部（またはフロントカバー）に差しかかるまでシーガードを施工します。ただしその上の段のコロニアルのジョイント部には、必ず「あらかじめ裏面にボンドを塗布したウォーターチャンネルをコロニアルの横勘合部に差し込んでください」を徹底してください。





●モジュール上部の納まり

モジュール上部はラックにかかるコロニアルの段の1段上まで納める。
 その際施工しない箇所のコロニアルにクラックがある場合はしっかりとシリコンなどでクラックを埋めてください。
 また未塗装のコロニアルが暴露することが気になる場合は事前の板金塗装時に該当箇所を塗装されてもよろしいかと思います。



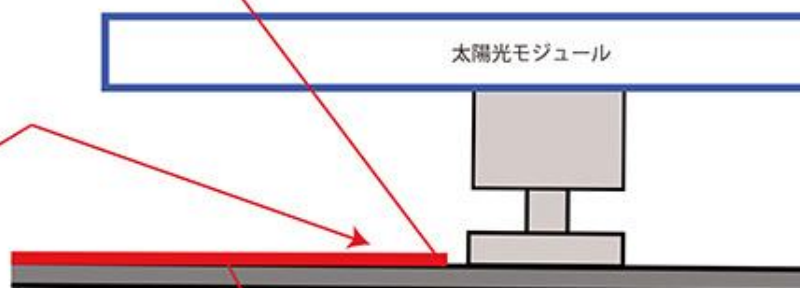
ラックがかかる箇所へのシーガードの施工は大変困難です。
 特に写真のような棟際はかなり難易度が高いので塗装仕上げをお勧めいたします。



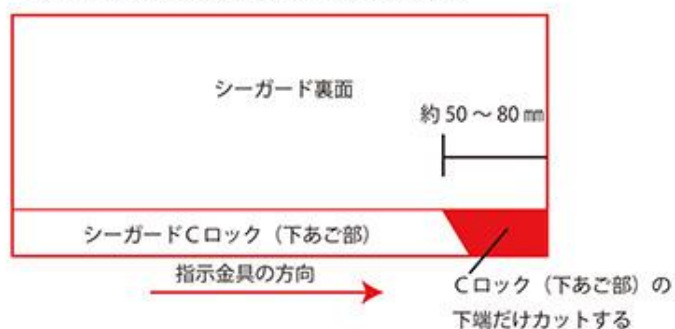
●モジュール左右ラック廻りの納まり

支持金具の手前 50 ~ 100 mm できりっぱなしで納めていきます。
 (写真は金具に詰め過ぎて、入りにくかった。そして実際には納まりが見えないのでここまで頑張らなくてもよかった・・・)
 施工にあたって下記の注意点に留意して施工してください。

シーガード本体金具の手前 50 ~ 100 mm 程度で終わるように納める。
 端部は切りっぱなし。



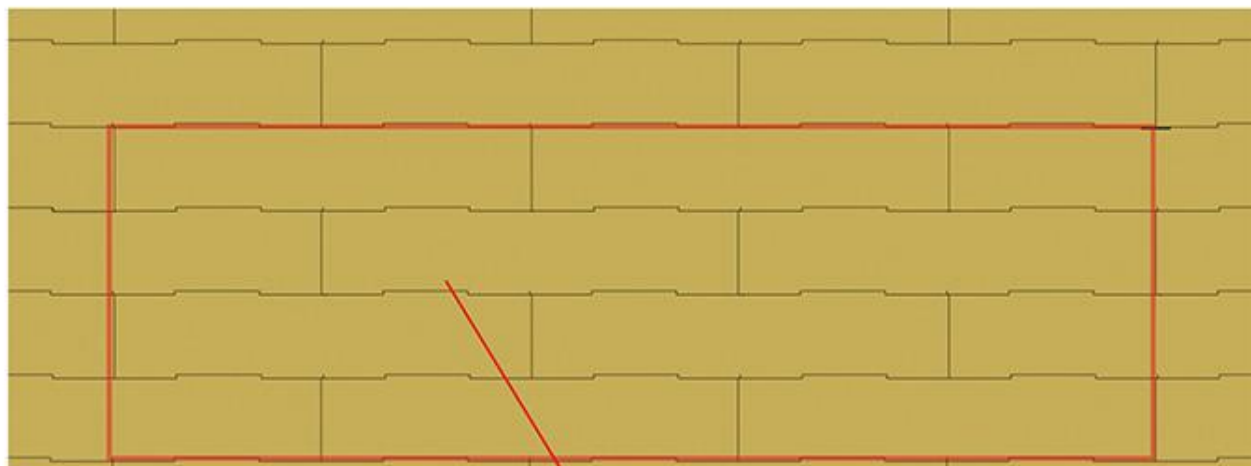
●金具の下地への締め付け具合によってシーガードがうまく入らない時があるので下図のように金具際だけ下あごをの底部のみカットすると入りやすい。



太陽光モジュール下はボンドが打てないので、
 シーガード裏面にあらかじめ塗布して、差し込んで行くようにしてください

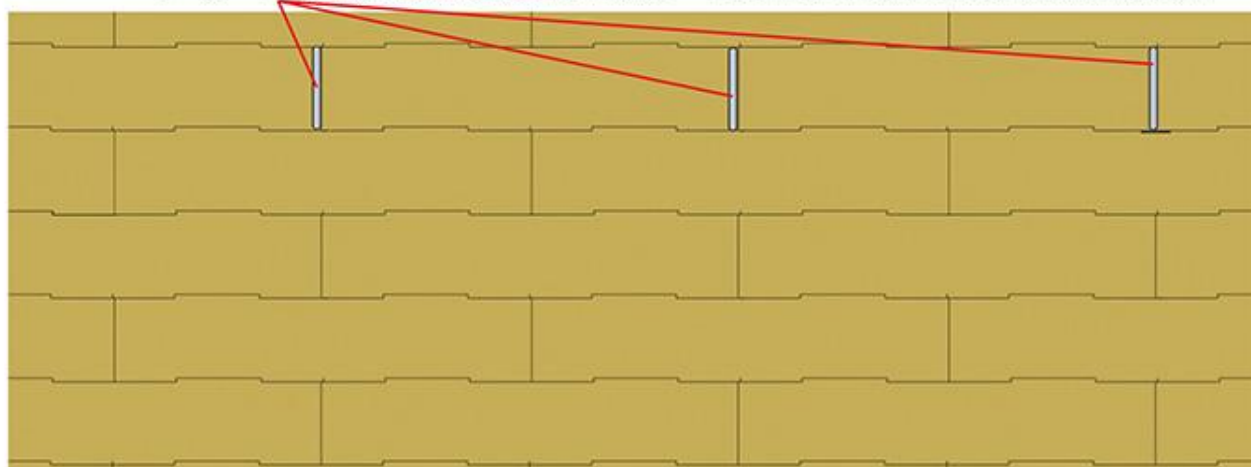
シーガードを部分張りする

シーガードを部分張る場合は以下の手順と注意事項を守って施工してください。

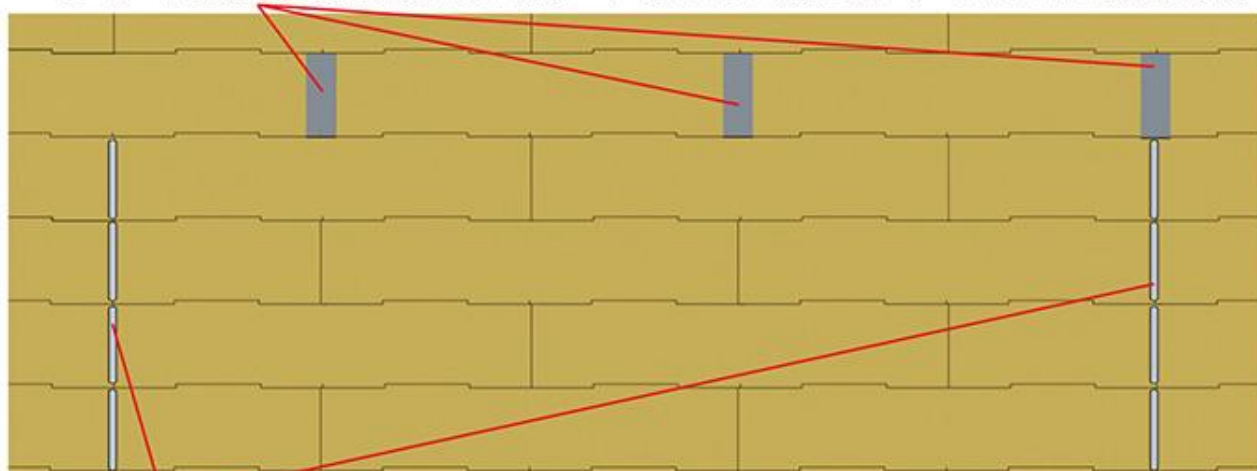


シーガードを部分張る範囲（赤線枠）

シーガードを部分張る範囲と取り合う平板スレートのジョイント部分に専用接着剤を塗布します。

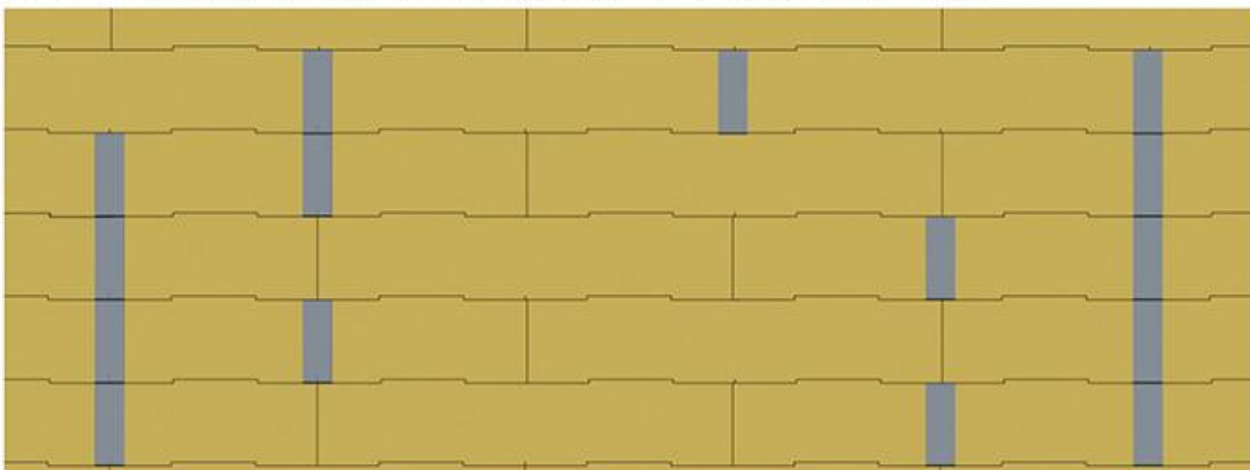


シーガードを部分張る範囲と取り合う平板スレートのジョイント部分にウォーターチャンネルを取り付けます。



シーガードを部分張る範囲の左右端部に専用接着剤を塗布します。この際に接着剤は絶対に通しで打たないでください。専用接着剤は各段ごとに塗布してください。

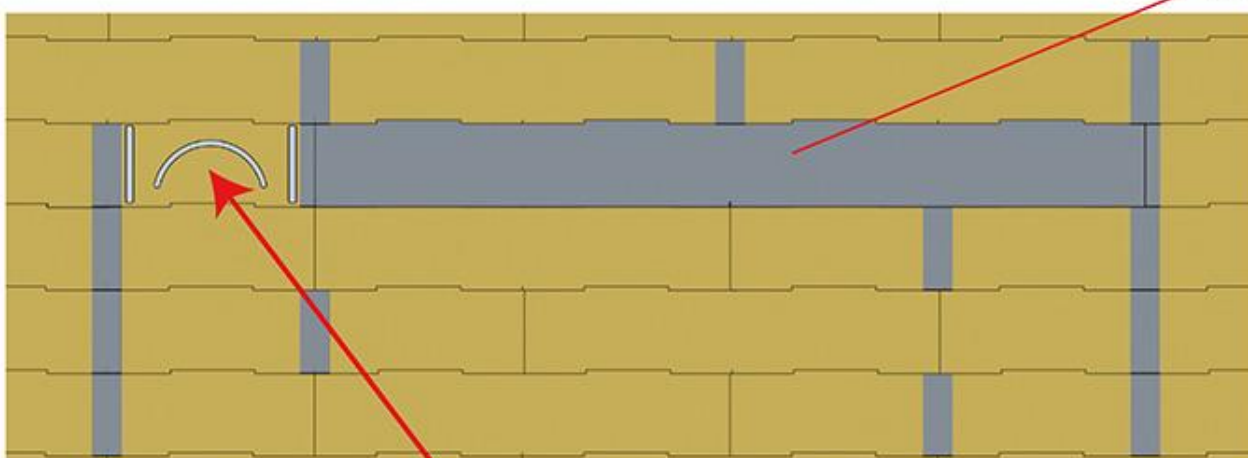
シーガードを部分張する範囲の左右端部の格段にウォーターチャンネルを取り付けます。
シーガードの割り付けにしたがってジョイント箇所にウォーターチャンネルを取り付けます。



シーガード本体を施工していきます。

長さに合わせて端部をカットする場合は下図の要領を守ってカット⇒加工して納めていきます。

シーガード本体

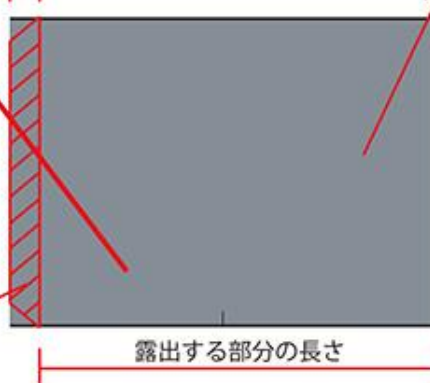


10～15 mm程度

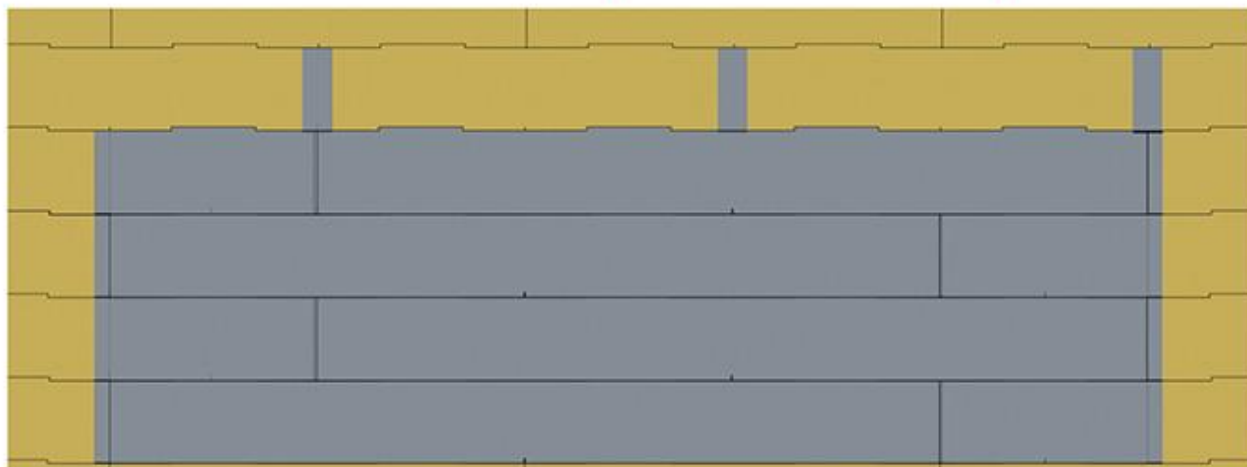
シーガード本体

部分張の際に

シーガードの左右端部の長さをカットする場合は
10～15 mm程度露出する寸法より、
長くけがき、斜線部が残るように
カットして、斜線部を本体裏側へ
つかみで折り曲げる加工をしてください。



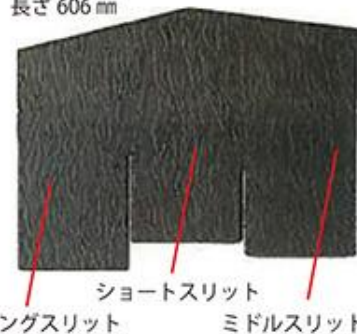
露出する部分の長さ



C/guard

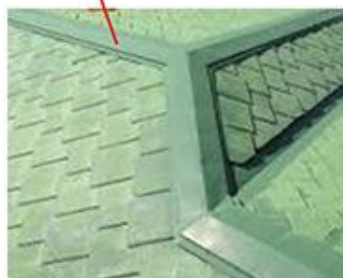
アーバニーをはじめとしたスリットカットタイプの屋根材への施工の注意点

長さ 606 mm



- ① 既存屋根材のアーバニーという屋根材は右写真に示すように横方向 606 mm の長さ
に 3 種類の長さのスリットがあるデザインで特徴的なデザインの屋根材ですが、
既存の隅棟施工によってシーガードの施工が変わる場合がありますので、既存
が該当屋根材の場合は十分注意して施工の可否を決定してください。

- ① 通し棟での隅棟の納まり
(普通にシーガードを施工できます)



- ② 隅棟が差棟で隅棟際が隅板大で
施工されていて、通常の本体の
ロングスリットと通りがあっ
ている。
(普通にシーガードを施工できます)



隅板大と本体ロングスリットの通りがあっている

- ③ 隅棟が差棟で隅棟際が隅板大で 施工されているの
ですが、通常の本体のロングスリットよりも 30 mm
程度下げて通りを出して納めている。
(シーガードを施工するときは、隅棟大と通常の本体
との横勘合部に 30 mm 段差を作って納めるなどの特殊
な納めとしなければいけません。)



隅板大の通りが本体ロングスリットの通りより 30 mm 程度下げて通りを出している。

- ④ 隅棟が差棟で隅棟際が隅板小で
施工されている。
(隅棟小を差棟板金と一緒に塗装後
シーガードを施工するか、差棟と
隅棟小を撤去して、通し棟板金を
施工してからシーガードを施工す
る。)



隅板小

- ⑤ 隅棟が差棟で隅板大・小どちらも
使わず施工し、左右の差棟の通り
がバラバラで、本体も斜めに施工
されている。*まっすぐ施工されて
いてそろっている場合は大丈夫です。
(シーガードの場合既存の通りに仕
上がってしまうため、できればほか
のカバー工法をお勧めします。)



- ② 既存屋根にスリットがあるタイプのデザインの場合に注意しなければいけない点の 2 つ目は 1 部のスリットだけ
シーガードにかみ合わず、シーガードが既存屋根の上に浮いた状態で納まっている事例が過去 1 件ありました。
これは下図①のように接着剤がシーガードに接着しない状態になり、強風などで飛散してしまう恐れがあります。



軒先側から屋根面の目線で
シーガードの通りが変に浮い
ていないか等で確認するよう
にしてください。

シーガードが既存屋根の上に
浮いた状態で納まっている。



下図①の断面のように既存屋根に浮いた状態で納まっ
ていると、接着剤がシーガード裏面につかまません。



図①(状況写真②の時の断面図)

接着剤がシーガード
に付着できてない。

シーガードを既存屋根にしっかり
かませて施工してください。

図②(通常施工の断面図)

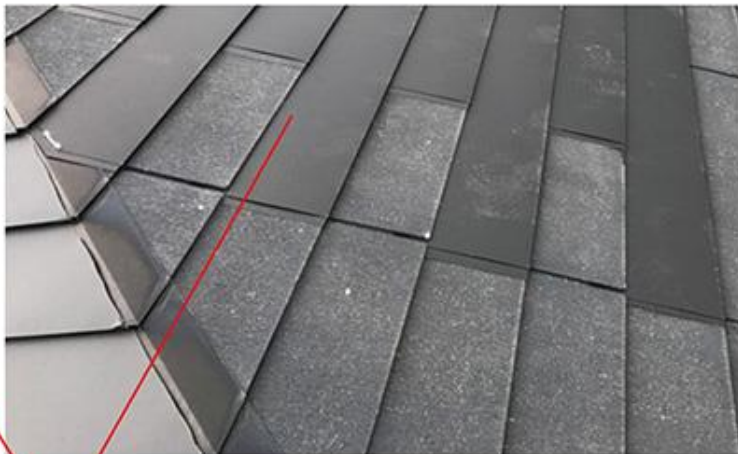


シーガード C/guard

施工面積を延ばす参考例

●施工面積の延ばし方の1例

本体は慣れた方などは、棟際の若干入れるのに時間がかかる箇所以外は、下の写真のように5段から10段先に切らない本体を施工していき、あとでまとめてカットする方法（もしくは多人数の場合は一人が切らない本体を施工し続けて、もう一人が切物を納めていく方法などがお勧めです。）



シーガードの上に拍子木を置いてハンマーでたたくと、擦り傷が付くのでつかない方法で施工してください。

シーガード C/guard

働き長さ（足）が 182 mm でない場合

●働き長さ（足）が 182 mm 以外の屋根

本書4ページに記載してある通り、シーガードは180mm～185mm以内の厚さ7mm以下の平板スレート屋根材が対応可能です。

平板スレートの種類の中には働きが150mm・194mm・200mm・204mm・227mmのものが少数ございますが、これらの商材には

対応しておりませんので、ご契約前に働き長さをご確認
していただくようにしてください。

ただし右の写真のフルベスト24などの働き227mmの屋根材は
下記の本で施工するようにしてください。

●C/guard:シーガード本体(227)

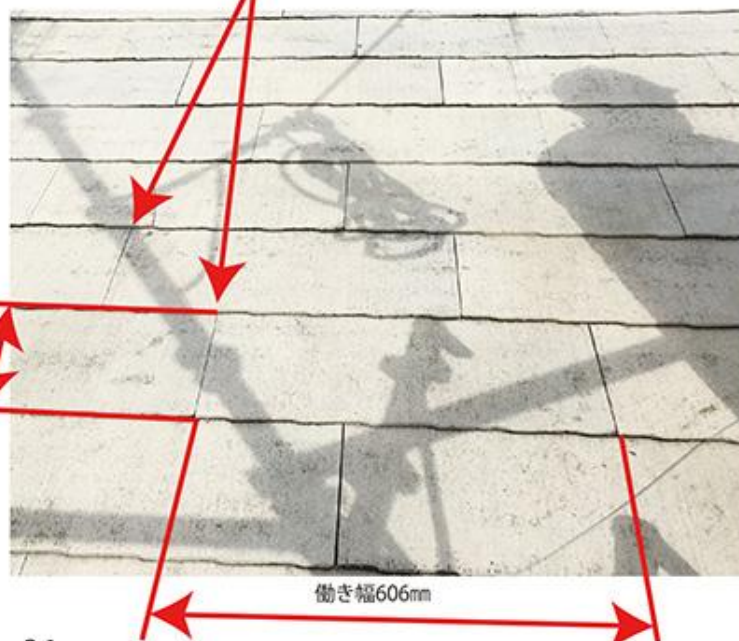
既存平板スレートは働きが227mmの場合に使用する
本体です。(色はブラックのみ、軒部材はありません)

本体1ケース10枚入り



フルベスト24

横勘合が1/3 (202mm) ずつつずれていくのが特徴



シーガード

C/guard

たまに聴く施工不具合（施工上の注意点）

冬場の乾燥時間がややかかる時や急勾配の時に稀に発生する現象が右の写真のように、下の段を「思いっきり力を入れて」たたきすぎると、上の段が知らない間に落ちてくる場合があります。見つけ次第押し戻せば戻りますので、このような場合早めの対処をお願いいたします。

②落ちてくる
場合がある。



①この列を強くたたきすぎて施工をしていると・・・

シーガード

C/guard

表面に付着した接着剤の除去方法

表面に出てしまった専用接着剤は除去する必要があります。該当箇所を接着剤表面が硬化するのを待って、市販の消しゴムや、手袋のゴムで屋根面にストレスがかりにくい程度の力でこすって落とすのがベストです。（薬品などはいくつか試しましたが白化するだけなのでお勧めしません）



又はすべり止め手袋のゴムでも可

乾く前に伸ばしてしまった接着剤はとても落ちにくいですが、場合によっては交換または 両端部を挟みでカットし、上張りなどで直す場合もあります

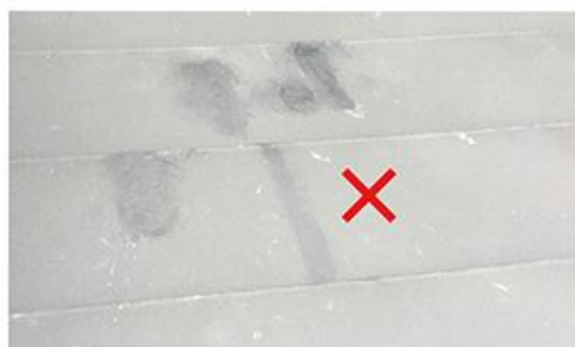


シーガード

C/guard

タッチアップ材はできるだけ小面積でタッチアップしてください。

タッチアップ材は同じ色合いで調合されていますが、その塗料の「現場乾燥」と「製造時の焼き付け乾燥」では加熱温度や付着膜厚・骨材などが異なるため、紫外線化で違う色に見えることが多々あります。このため傷などに筆をなぞるようにできるだけ使ってください。下の写真のように多く塗ると色違いのクレームの原因になります。



この説明書は専門業者様向けの説明書です。
専門業者以外の方がご覧になる場合は、
記載された施工方法以外で納まる場合も、
多々ございますことをご了承のうえ、ご活用
をお願いいたします。

本施工説明書は2024年01月現在のものです。
仕様・施工方法が変更されている場合が
ありますことをあらかじめご了承のうえ
ご活用ください。

禁無断複写・転載

C/guard

シーガード公式ウェブサイト

<http://yanecover.net>

シーガード 屋根 ×

🔍 検索

シーガード
C/guard 発売元

 **株式会社 オークマ**

〒838-1305 福岡県朝倉市菱野1548 TEL:0946-52-2800

営業拠点： 東京・名古屋・大阪